江戸名所図會

十一

ル 4
5105
11

門ル4
號5105
巻11

江戸名所圖會巻之四

天權之部目錄

市谷八幡宮 茅木稲荷
藥王寺 一水 茅師
大窪映山紅
鎧明神祠
中野成願禪寺
寶仙寺 大師堂 二房塔
阿佐谷神明宮
慈宏寺
金井橋 金看花名
神樂坂
閻魔堂
藥王寺 稲荷祠
大窪天滿宮
自證院
淀橋 水車
中野長者昌蓮墓 童樹 二王門 小名樹 椿 加持 絵
姫の内妙法寺
牛頭辨財天宮
津久戸明神社
若宮八幡宮
松源寺
月桂寺 安産 宝珠
七面大明神社
西運寺
角筈十二所權現社
大宮八幡宮 鞍掛 楊枝 橋
牛込池
藥王八幡宮
沙元寺 袖掛 紀寺
正覺院
安養寺 稲荷祠 八幡宮
諏訪明神社
圓照寺 右馬 揚 熊野宮
中野七塔
桃園觀音堂
幡ヶ谷不動堂 法殿山
逢坂
牛込城址
赤城明神社

昭41年12月20日
原安三郎氏寄贈

涉殿山
大友松 大友稙
幸國寺 布袋祖師
感通寺 毘沙門天 摩利支天
金川 敬生院 紀藤斎
寶泉寺 出現所
百八塚
荒園山
氷川明神社 須佐之男 稲田姫 須佐之男 櫛稲田姫
蓮台土橋
本花岡邵姫社
海松寺
宗柏寺
頼満祖師堂
三宝佛来迎観世音 自樂居士墓
言田八幡宮 菊大八幡宮 記者
言田稲荷の社 神象
言田冨士山 洗間 祠
高田天満宮
山吹の里
傍ち橋
右橋
奥州橋
茂杜稲荷社
豊後小佐従大友義延舊跡之地
宗参寺 大胡氏墓 栄の橋
早稲田神明宮
毘沙門堂 紀日尾 多幸松
宗良親王陣営旧址
高田馬場
三宝山 三宝祠 山吹牡
姿見の橋
氷川明神社
宿坂関舊跡
泰雲寺 蘭斎先生墓
一枚岩
子子院
赤城明神舊地
誓願寺 垂枝様 稲荷 本地堂 水宮明神祠 橋門
和田戸山
戸塚
高田七面堂 世音堂 紀日堂
菊苑院 業師堂 紀日堂 菊の橋
七曲坂
金剛院 紀世者

蓮台堂
金剛寺 実相公碑 北斗堂
大洗堰
洵留橋
関口八幡宮 日吉宮 玉姫社
大慈寺 造酒社 春日 観音 庫裡 今宮 鹿島天 大師堂 仁王門 中門
雑司谷鬼子母神堂 現所 墨の清水
雑司谷鬼子母神出現所
法明寺 秋葉社 絲滝
大沼院
八幡宮 永七天祠 大宮天社
蓮成寺 沢稲荷社 稲荷社 紀師堂 中沼
小石川 紀師堂 金武社の本
法明寺 方丈 中門
護国寺 業師堂 経堂
本源寺 七面宮 大黒天
宝塚寺
牛天神社 陣鷲狗 牛石
道祖神祠
新隠庵 八月地蔵
墨谷の牛舞地
小村雪岑翁別荘地
大塚
氷川明神社
氷神社
道山幸神祠 経筵祖師
本伝寺
宝塔巣先生墓
護国寺 業師堂 経堂
本源寺
宝塚寺
諏訪明神社
大日堂
八幡宮
関白不動堂
波切不動尊
護持院 秋葉大 西方三十三観音の写 後藤
清立院 日蓮上人影堂 請雨松
本納寺 石二王尊
法華川
伝通院 開山堂
光圓寺

本木薬師如来
玄量院
氷川明神社
猫驅橋
常蓮寺
清水薬師如来
猫塚園橋
十羅刹女宮
観音堂
大師堂
遍井
石神井城址
藤折屋
鶴沢田澤山田鍛地
宗慶寺
白山神社
十羅刹女堂
女男松
子薬家城址
大堂
子薬家古城址
三寶寺
氷川明神祠
石神井明神祠
宗星寺
西蓮院
三寶寺池
練馬城址
関川
祥雲寺
療病院
巣鴨長性寺
板橋澤
板橋原
本下稲荷祠
結跏禅現宮
松月院
矢上観音堂
八幡宮
清水坂
一夜塚
赤塚明神祠
練馬長命寺
愛宕権現宮
照日塚
立野舊跡
十玉院
氏の藤明神祠

野火留
狭山の池
曼荼羅淵
新堀玄蕃居住地
薬王寺
新宿熊野
子安清水
大宮氷川神社
戸田川渡口
平林澤寺
安松長源寺
狭山
永源寺
小手差原
勝楽寺
狭山差三郎田址
還車阪の不陀如来
箱の池
所澤
新光寺
焼米坂
調神社
東光寺
八國山
久米川
小野天神社
将軍塚
狭山観音堂
飽間齋藤氏墓碑
姥兼丹
新光寺
大宮氷川神社
潮田出羽守資忠城跡

市谷八幡宮　市谷御門の外よりあり　別當ハ東圓寺と号し南紀高野山金剛峯寺に属して古義の真言宗なり

本社祭神　應神天皇（仲哥の神躰なり相伴の多田満仲崇信あり靈軀中に住す摂州多田の廟よりあり）　太田持資ハ應神天皇の西ハ妃大神（天皇の御母君）　宇佐菩薩（三佛ハ愛宗明王なり本地）　東ハ神功皇后（當社地主の神なり石階の中段左の方よりあり世俗茶木地神の産子ハ毎歳四月元三の間茶を御ら祈願し眼疾を患ふる者ハ一七日又三七日と日数を定めて茶を御ら祈願し霊験ありと諸の願ひ成就せり）

神鎮座　稲荷祠（稲荷と称せ其来由信しがたし故に略せり）

社記曰文明年間太田持資江戸城擁護のために相州鶴岡の八幡大神を勧請し山林及び神田若干を附し東圓寺を創建せ山野を稲嶺と称ハ此地の地主の神と又自親松推（土俗道灌鶴岡も曰稲荷の社地なり蓋此例ハ本くと云）樹を栽く社木とし社壇城廓と称ハ繁栄あらんことを祝せ枝葉繁茂と今尚存せ

天正年間の兵燹に罹り破壊せしを慶長年間別當源空必僧都此頽基を憤激し己ら餘鉢を傾け百歩許の遺址を點撿し艸を結ひ檐とし木を伐く扉とし一宇を再

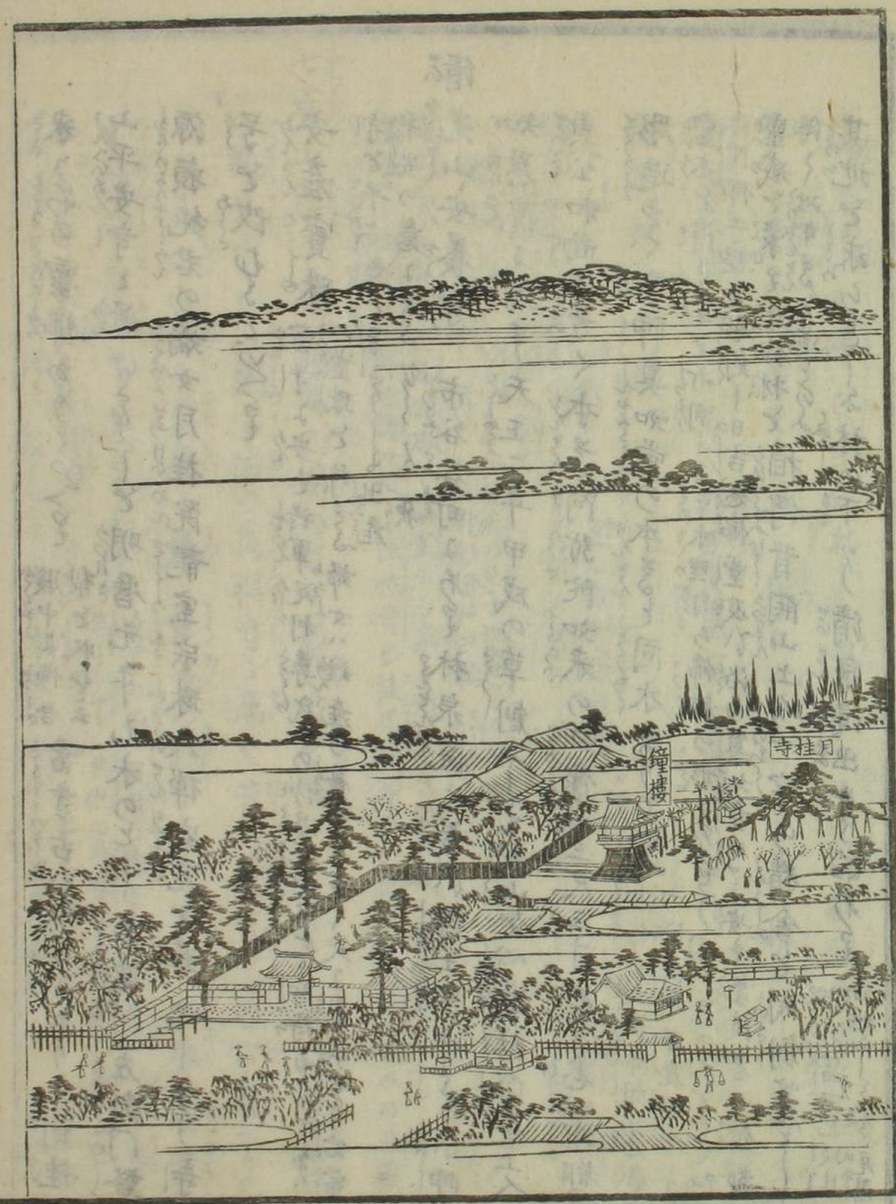
或人の説に市谷昔八市の立地なりしを
市買ふ作りくりとの人殘れとも祥なしす
按に鎌倉鶴岡八幡宮に藏もる系の延文
三年十二月廿二日の基氏の古證文に鶴岡
八幡の雜掌仕阿申武藏國金資木
彦三郎市谷四郎をのゝす江戸氏路守
押領を止む正和元年八月十一日の
寄進狀に住せ社家に付て
沙汰せしへと
云く證とも
社地に戲臺
楊弓の類ひ
ありく彦に
賑ひ又社
前の大路に
四谷への
往來あく
行人
絡繹

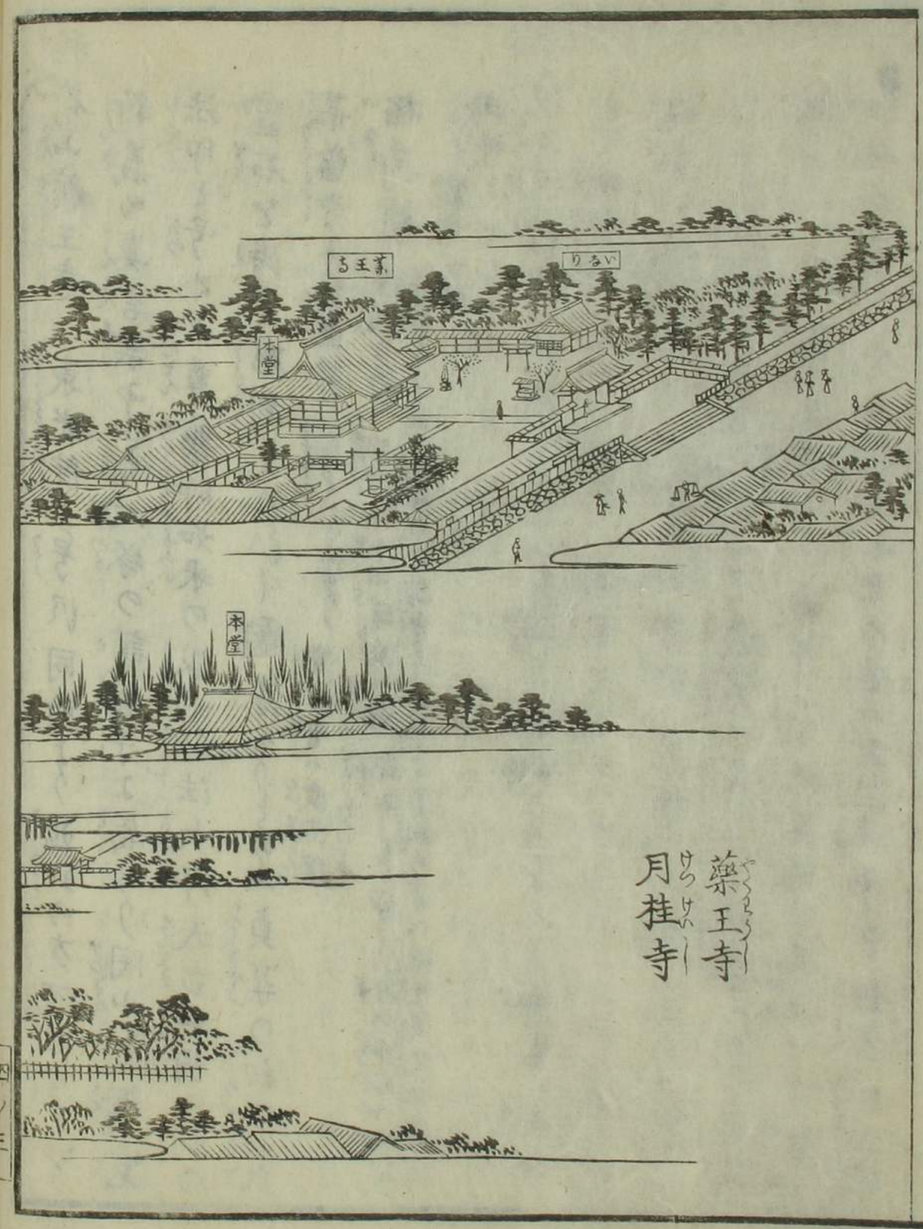
営し神殿を擬し絶えたるを継廃れたるを興せり然れども
諸を古の壮観に比べれば十之一を得たるのみ唯幣
帛を捧げ薬具を盛り宝祚の萬こを泰山の安に置き武運の
綿々たるを芥石の長に護兼てを又萬姓の豊楽を祈り奉る
事なり

大神君　開東御入城の時当社の来由を問はせ給ひ
御三代　大将軍家社領を附せられ朱墨を賜ふ然る元禄十
五年壬午の夏　贊母従一位桂昌院殿当社の事蹟を聞しめ給
神輿の足らざるを憾み思はせ給ひ黄金教授を寄捨して新に
更を奉造なしめ給へり　神輿全く備はる
して著く社殿の経営も又ひろく輪煥として宿昔の壮観に倍
せり　南向亭茶話云く市谷八幡宮の旧地は市谷伊門の内今大番所のあ
り北の方の向ふ角山本氏の邸の隅に榎の大樹あり寛永年
間今の地に迁し祀る　此榎を神木と称せり

稲荷山薬王寺　東光院と号し同所より西北の方河田窪に
新義の真言宗にして大塚の護國寺に属せり開山を澄覚
法印と号く本尊薬師如来の像は弘法大師天台四明の洞の
霊石を得て彫刻しまつる霊像なりとぞ貞享の初須田氏
某当寺に安置なしまつる　当寺昔は愛宗院
稲荷祠　境内にあり相伝ふ太田道灌の勧請なりと称す　今の市谷伊門の
辺にあり元和の頃当寺より二丁ばかり北の方へ迁す又此地へ
当寺の護
法神とせり

正覚山月桂寺　同所三丁ばかりを隔て西南の方にあり清家の禅林に
して鎌倉圓覚寺に属せり開東十刹の一員にして渋江氏通玄院
徹齋の創立喜連川家の香華院にして總門に掲る額に正覚山と
あるは南禅寺の普済禅師崇寛の書なり鐘楼の額に華應
閣と署せしは香山侯書なり当寺は文禄年間の基立にして雪山
和尚開山にして本尊釋迦如来の像は天竺佛ゆ来の鑑真和尚携





薬王寺
月桂寺

来るわの靈佛あらとへ腰中に佛舎利を收むと云 當寺古ハ市谷にあり圓挂山平安寺と号けしを明暦元年乙未のとし喜連川左衛門督源頼純君の嫡女月桂院龍室宗珠大禪定尼を葬せしより寺号を改むるとなり

安產寶珠 當寺に安産を將軍足利尊氏公の臺所ことを所持ありしとあり寺を平安寺と号しかりしも出產の靈珠を拜する婦女ハ難產の憂なしとて大に崇敬せり始當平安の意によるなり

清光山安養寺 市谷谷町にあり林泉院と号ク浄土宗にして京師知恩院に属す天正二年甲戌の草創にして開山を心蓮社深誉上人真公和尚と号く本尊阿弥陀如来の立像ハ三尺三寸あり恵心僧都の彫造なり京師真如堂の本尊と同木なりとなり 相伝に天長年間慈覚大師江州苗鹿明神より靈木を得て髮を打削りしに木理自ら佛躰の形をなせり一片の木をもて阿弥陀佛二軀を彫刻し日吉念佛堂及び洛の真如堂に安置せり後恵心僧都靈威を蒙て餘材を得て此佛堂を造るとなり 相傳昔開山上人一宇の精舍を開創せんとして其地を求らるとしふ林の下より清泉涌出せるあり 市谷冨士見坂其旧地なり今ハ尾張

公館の内に入と云 又傍に小き洞あり中より一疋の白狐顕るとなり深誉上人に見え恭禮せるに如し依て靈地なるを推知して地の主島田氏某に乞得て其地に梵宇を建る明暦二年丙申此年今の地へうつる

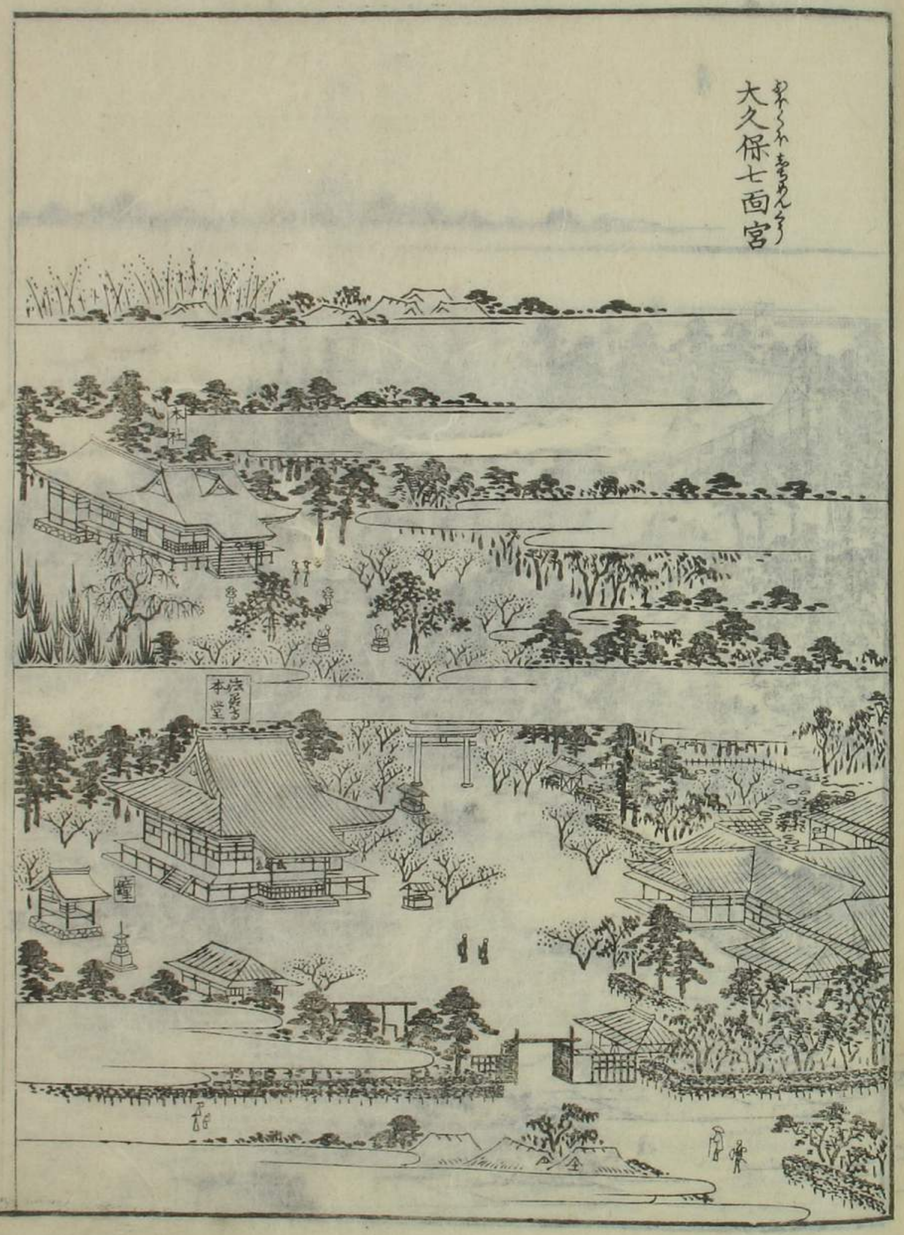
稲荷祠 境内にあり方治元年正月朔日の夜白衣の老翁住侶秀誉上人の夢に見えて告て曰ふ我ハ白狐なり上人に見えて直に稲荷明神に勸請せとあり又頃此地に宇田国宗俗に鍛冶居住しかりしに深く信仰し此神の加護によりて火災を免れしと故に崇めしを稲荷と称せ

八幡宮 同しく境内にあり雲州の尼子伊豫守経久城内の鎮守に崇めしを故ありて後に本地阿弥陀佛ハ定朝の作にして俗安元年詔をもて造立せしとあり後月輪殿下兼実公の家に伝へを経久城の鎮守にしかりしを當寺に後寛僧都の持仏にして法性寺の後光佛にして洛の壬生寺同木の地藏を安置す

七寶山藥王寺 同所西南の方にあり一宇間四丁斗を隔て黄檗派の禪林にして山城宇治の萬福寺に属せ昔ハ真言宗の古藍なりしとも中古大に衰廃し絶に草庵の形のみなりしを元禄の頃凌雲和尚ハ信州の産なり武田典厩の女の腹に生して平氏典厩の外孫なり同國小諸曹洞宗海音院に剃髮し後黄檗とある江戸に出て草庵をくみ新に一宇の寺院とせんを謀ることもとより寺院を新建せしハ官禁ゆるかり

大窪天満宮

社壇西ハ向ハ方ハ西向とらひ又ハ東の天神と称ス
ともに東の来由ちくゝ〳〵ハ境内
きこゆる幽邃あり



くこかりそれとも其德の至る所竟よ免許あるべしハ江戸の中八箇の庵室と唱へ迷く一寺ある青山の海花寺深川の萬祥寺等なり其中ありとなり

一木藥師如来 同境内よ安置せ日ハ赤坂一木の地よ立せのへ行基菩薩創建今ハ人継と書り

大窪天満宮 大窪よあり一寺の社あり此地の鎮守とす祭禮ハ六月廿五日なり別

當ハ梅松山大聖院と号して聖護院宮の直末本山派の江戸役所

中て大先達なり社を世よ來の天神或ハ西向の天神とも称せり

社壇西よ向ふ九ふ云ふべし相傳ふ安貞年間梅尾明恵上人の勸請やて

来と称する来由なくしも

明慶覚運等是を奉祀せ後又太田道灌神田を寄附す然るふ

天正年間兵燹ふかくて烏有とあり頃て神躰渓間の櫻の枝に

移て止りあり其木を瑞現櫻と号く此時青山氏某郷人と共よ謀て

今ハ枯しといふ

祠を經營せ聖護院宮道晃法親王東國下向の時大僧都元信

をして當社の別當たるもとふ地なく寢廟漸備りて四時の祭

典綿々として怠ることなし

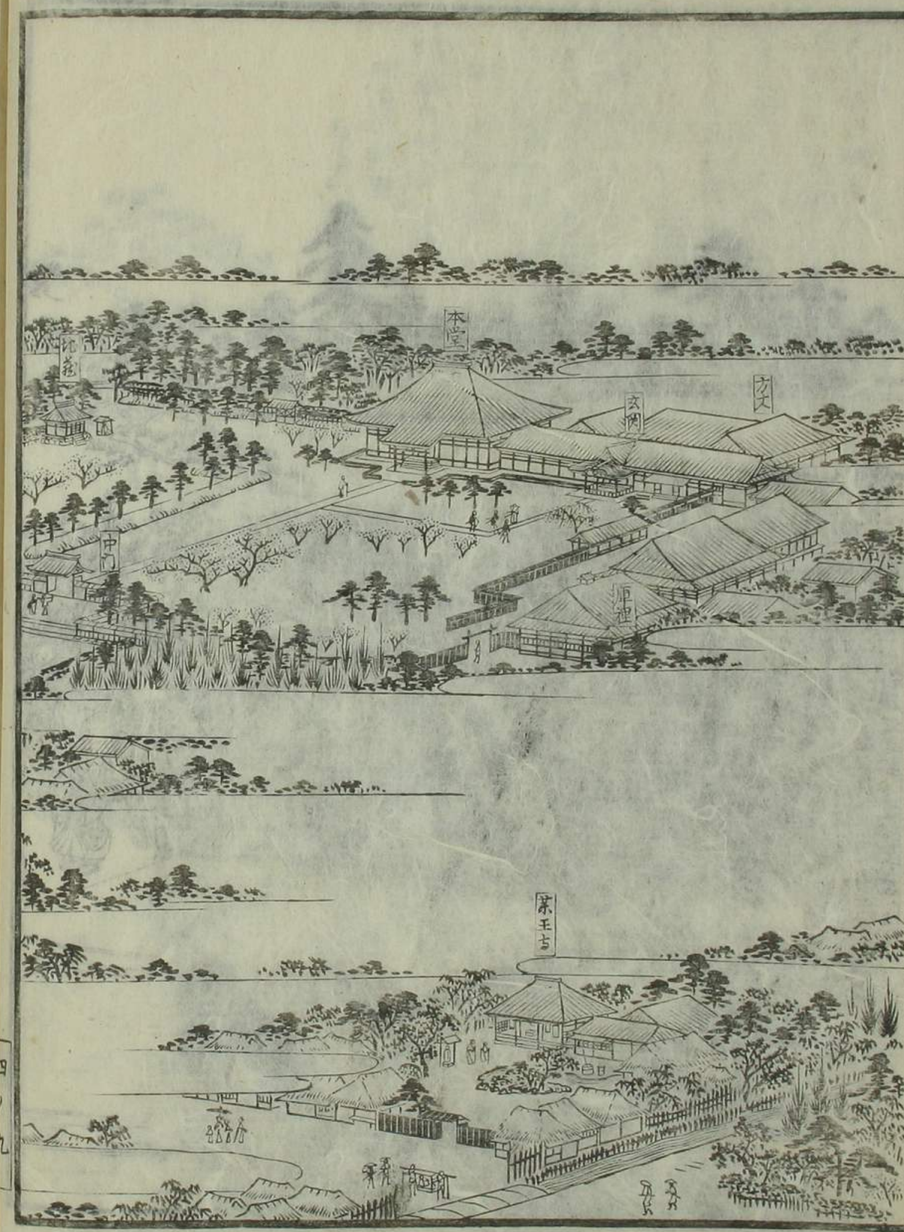
七面大明神社 同東の隣日蓮宗春時山法善寺よ安置す祭礼

本社
拝殿

諏訪谷村
諏訪明神社
別当
玉蘭寺
矢

大久保の映山紅ハ
弥生の末試盛とし
長丈除のりの数株
あらと其紅艶を愛
するの樂こゝふ詳遊を
花開微少といへとも
叢り開く枝莖を蔽ひ
さゝに満庭紅と灌
う如く夕陽ふ映して
錦繡の林試るに
此辺の壮観
るるへし

自證院
山王
寺中


本堂
玄関
中門
寶王堂

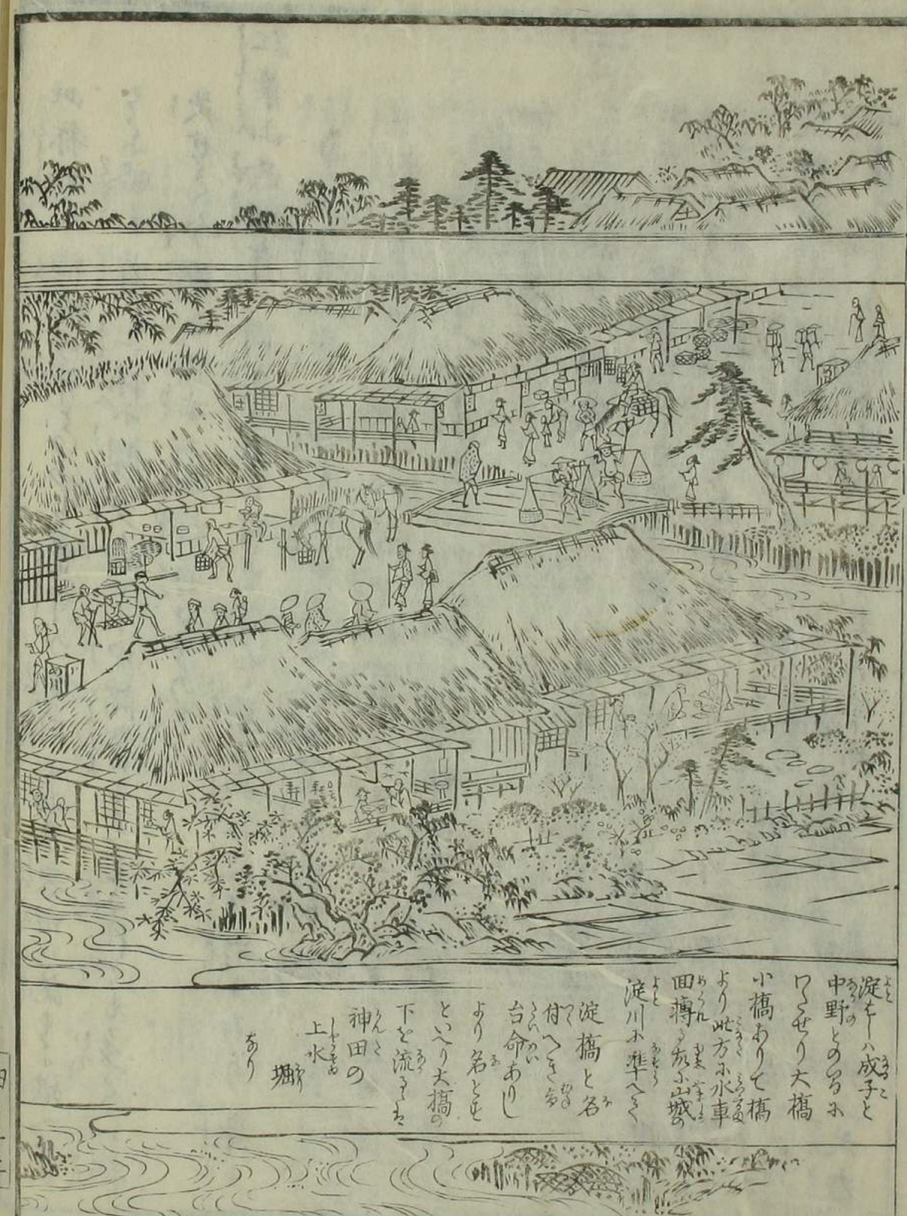
九月十三日より十九日まで誦経説法あり尊影八日護上人の作なり相傳ふ此七面宮を勧請せるの嚆初ふしく往古駿州大久保より三澤氏其勧請を萬治年間當寺へ移せるとも　或人云三澤氏ハ小次郎政廣と云後ハ駿河國富士郡大鹿村に移て住す富士十七騎の一なり延慶二年己酉五月十八日ハ没せ法号三澤院法性日弘　或ハ云延寶年間甲州身延山よりこゝに移せと境内櫻樹と号すと多くありて弥生の盛をゝて一時の奇観とせ

鎮護山自證院　同所西の方道より右側にあり　寛文三年より此神前にをいて常住續誦せしめ永世に絶しむ　土俗此所を圓融寺と饅頭谷と云号ハ天台宗にして東叡山に属せり尾州亜相光友卿の御簾中千代姫君の御願堂自證院殿光山曉桂大姉御菩提のため開創せし精舍なり本尊ハ阿弥陀如来開山を日須上人と号ハ當寺始を日蓮宗ゆゑ本理山自證寺と唱へしに元文年間故ありて天台宗に改めらる當寺を世に所ふし寺と字ハ諸堂宇悉く種々比節ある木を集めて造立しゝるゆゑ衆人尤奇異なりとす因て

此称あり蜘蛛の井とゝなつも當寺の境内よりあり来由ハ誌せる堪へす
こゝふ略せ昔ハ山林ふ櫻多くもゝ由諸書よりこれとも多くハ枯
失せく今絶ゆ古木二三株存せるのゝ

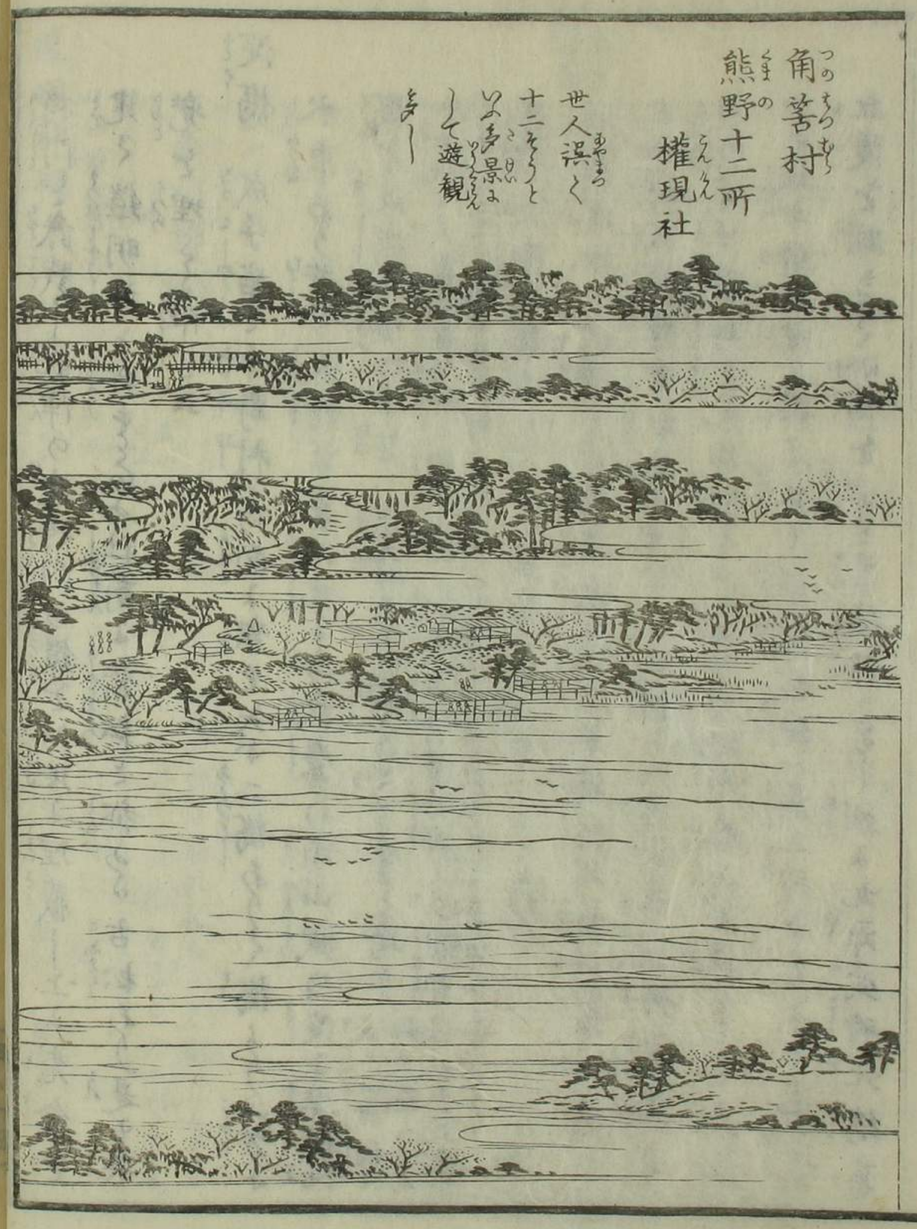
紅葉山西迎寺　同巽の方二町をかりを隔て四谷北寺町よりあり　浄土
宗ゆゝ増上寺よ属せ往古太田持資の臣伏見勘七といふる人の
草創なりしのゝを旧ハ御城中紅葉山の地よりありしを天正の後此
地よ移せとゝゝ本ゝる阿弥陀ゆ来開山ハ儀蓮社仁誉上人存公
和尚と号せ

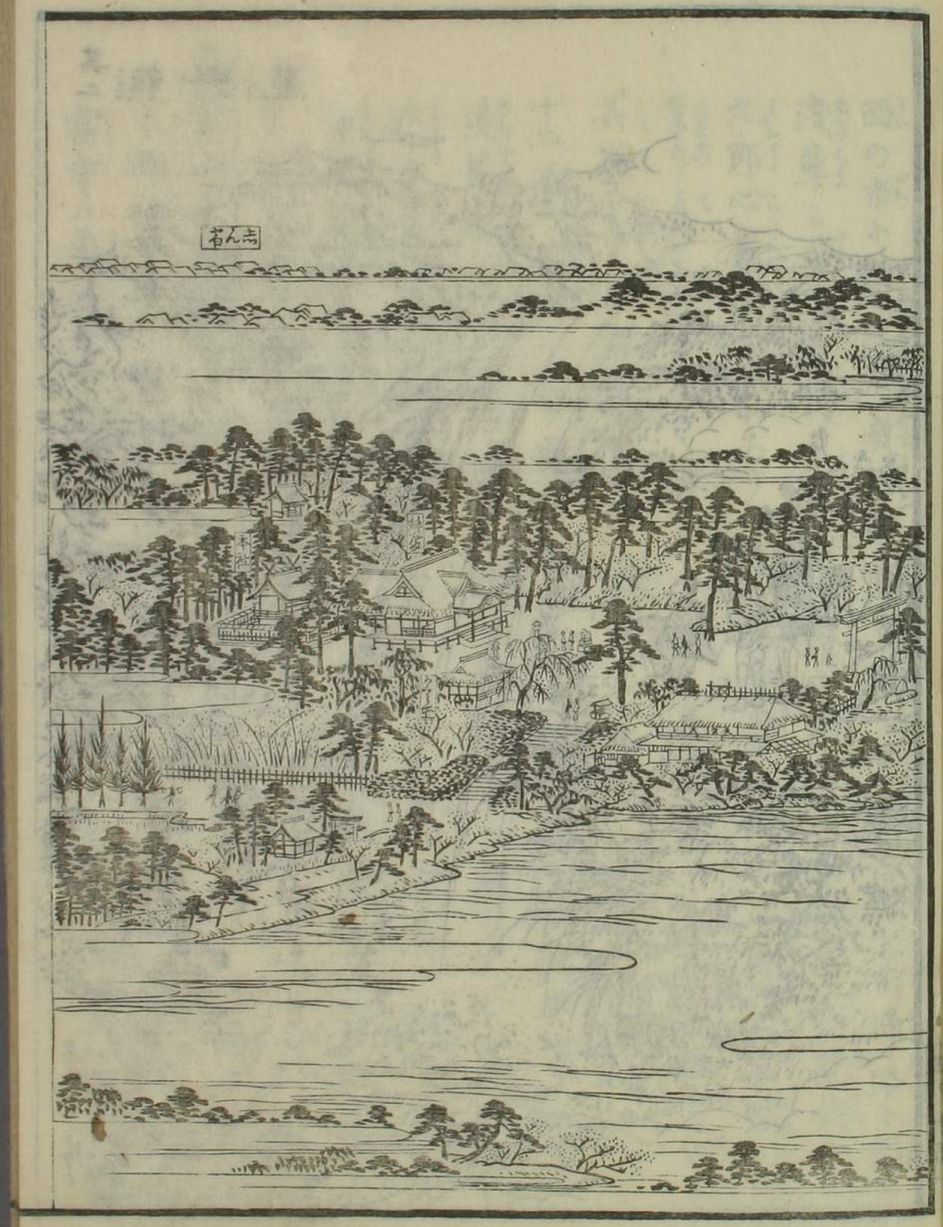
醫光山圓照寺　瑠璃光院と号ハ柏木村よりあるを真言宗ゆゝ
田端の與樂寺よ属せ本ゝる薬師ゆ来の像ハ行基大士の作脇士ハ
日光月光の二尊なり又左右の壇上よ十二神将の像を安ハ相伝ふ
醍醐帝の御宇理源大師の法弟筑波の貞崇僧都此像を此地よ
安置しなるとゝゝ兼平二年壬辰平将門威を東関よ振ふ天慶



淀をハ成子と中野とのあ
ワせり大橋
小橋ありて橋
より此方ハ水車
田搏あふ山城の
淀川ハ準へく
淀橋と名
付へき
台命ありし
より名とも
といへり大橋の
下を流るゝ
神田の
上水
堀
あり

三年藤原秀郷是を亡さんとて軍勢を帥く當國中野に至る
時に右の臂に疾あり軍中醫薬なく大に是を憂へて夜靈示
あるを以て當寺の本尊に祈るに病苦忽に平愈せり時又
將門征罰の願書を献じ果して將門を誅戮せ故に凱陣の後
堂宇を建立して圓照寺と号し後建仁二年壬戌に至り江戸
民部大輔頼助修營あるとも弘安八年兵燹に罹て佛宇
回禄せり後永仁元年癸巳頼瑜僧正茅宇と菩覆し旧記を修補
せしとも天正中越の景虎此地に戰ひ頃復兵火の為に廢
亡せしを寛永十八年辛巳に至て春日局官裁をもて重く修
復せられ
右衛門櫻當寺堂前にあり軍辨にして芳香殊に勝れ類なき名樹なり里
諺に云ふ昔武田右衛門と云ふ人こゝに住んで此櫻を愛せ拍木村にありて
名づくと櫻にまつはる源氏物語の柏木の右衛門と云ふ名に就てかく呼しなり
小田原北条家の所領役帳に徒部惣四郎所領柏木角菩
鎧明神祠圓照寺の艮の方にあり圓照寺の持なり相住に藤原秀郷
將門を誅戮し凱陣の後將門の鎧を此地に埋蔵し上に兜倉を
建て鎧明神と称せり社前に兜松と称する古松あり是も其
兜を埋せる印と云
淀橋成子宿と中野村との間に架せる大小二橋あり橋より此方に
水車あり昔大將軍家此地に渉放鷹の頃山城の淀に準擬此
橋を淀橋と唱へし旨上意あり因て号すと云
和名抄に武蔵國豊島郡に餘戸と云ふ村あり此地は豊島郡と多磨郡の中間にて上古の
旧名は面影の橋姿見すの橋なとも呼しなり
十二所權現社淀橋の南角菩村にあり祭神紀州熊野權現に同し
本郷村成願禪寺奉祀の宮なり社記に云應永年間鈴木莊司
重邦の後裔鈴木九郎某なる人あり紀州藤代に住りしに流落
して此中野の地に移て住す熊野權現は産土神なるより宅の辺の
丘陵を開きて小祠を營る信深なり然に九郎成時北總葛


角菩村
熊野十二所
權現社
世人誤く
十二そうと
いふ多景を
して遊覧
すべし


志んぜ

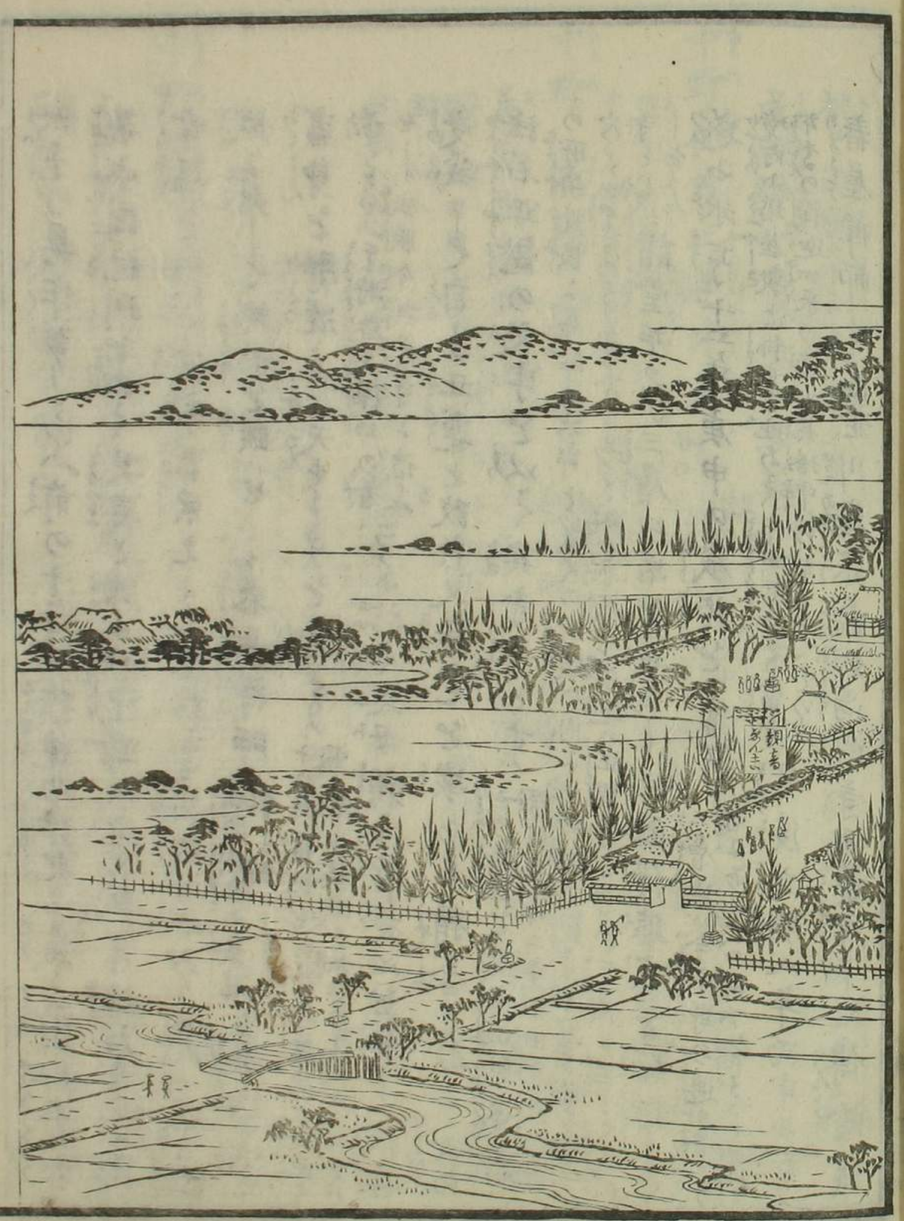
其二 熊野瀧

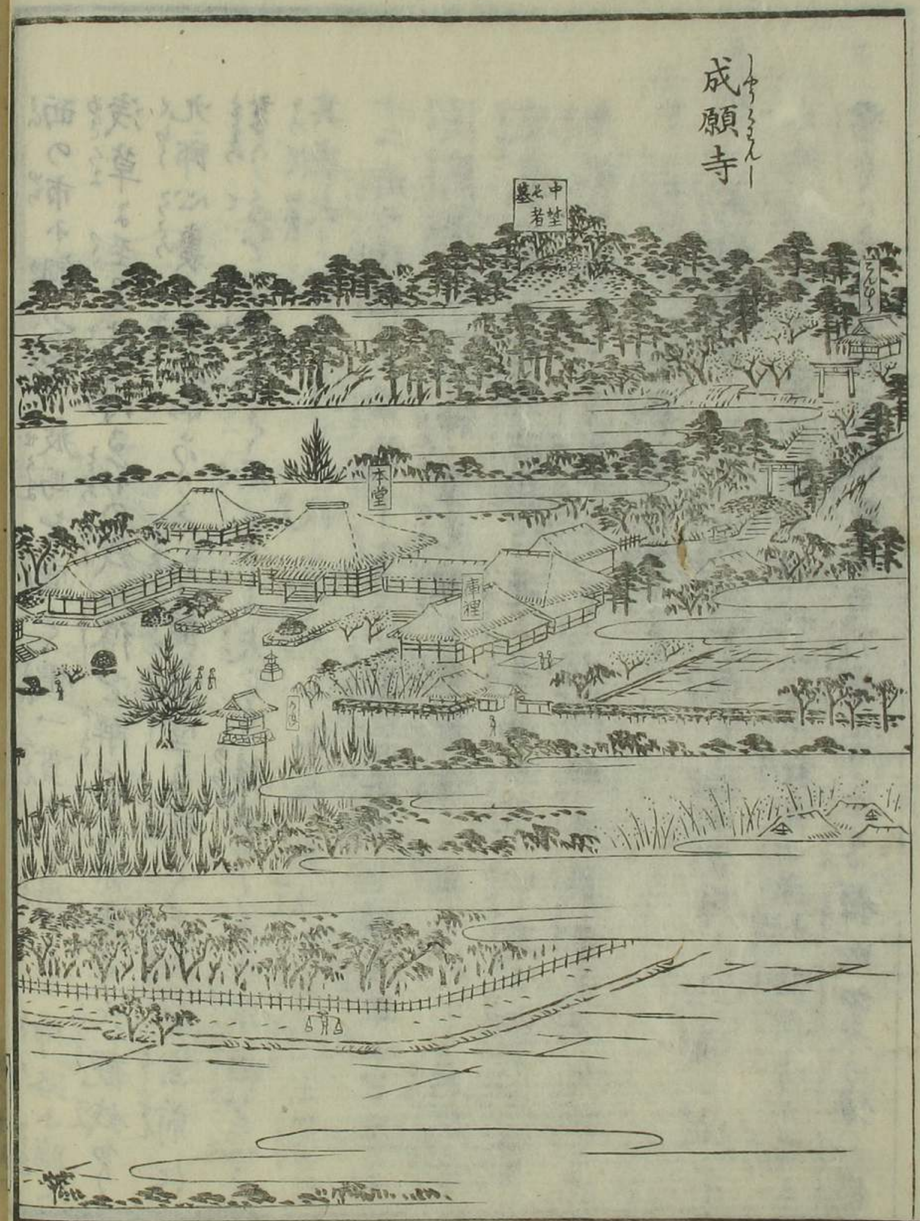
西の市に飼ふ所の疲馬を賣る價一貫文を得て帰路に臨て浅草に至る其得る所の錢の緡を解て こゝに悉く大観錢なり九郎心裏に思ふ所あり即観音堂に詣て錢を宝前に散り撒て空しく帰る夫より後たゞ幸福を祈る其家大に富をなせり故に應永十年癸亥社を再興し更めて十二所の神を勧請し田園若干を附し数世を歴て後荒廃に帰す神燈光疎に祭奠常に闕とゝ雖も猶感應の速なるを以て村民恐怖し遂に享保の頃官府に許て成願寺奉祀の宮とす こゝに已降神供厳重に祭祀懈らず

なゝ九月廿一日を祭祀の辰とす

多寶山成願禪寺 同所上水川を隔て西の方同し川端に臨て本郷村にあり曹洞派の禪利にして相州田原村香雲寺に属す

當寺八角筈十二所権現宮の別當たり本尊釋迦如来の像は聖德




成願寺
中望之者墓
本堂

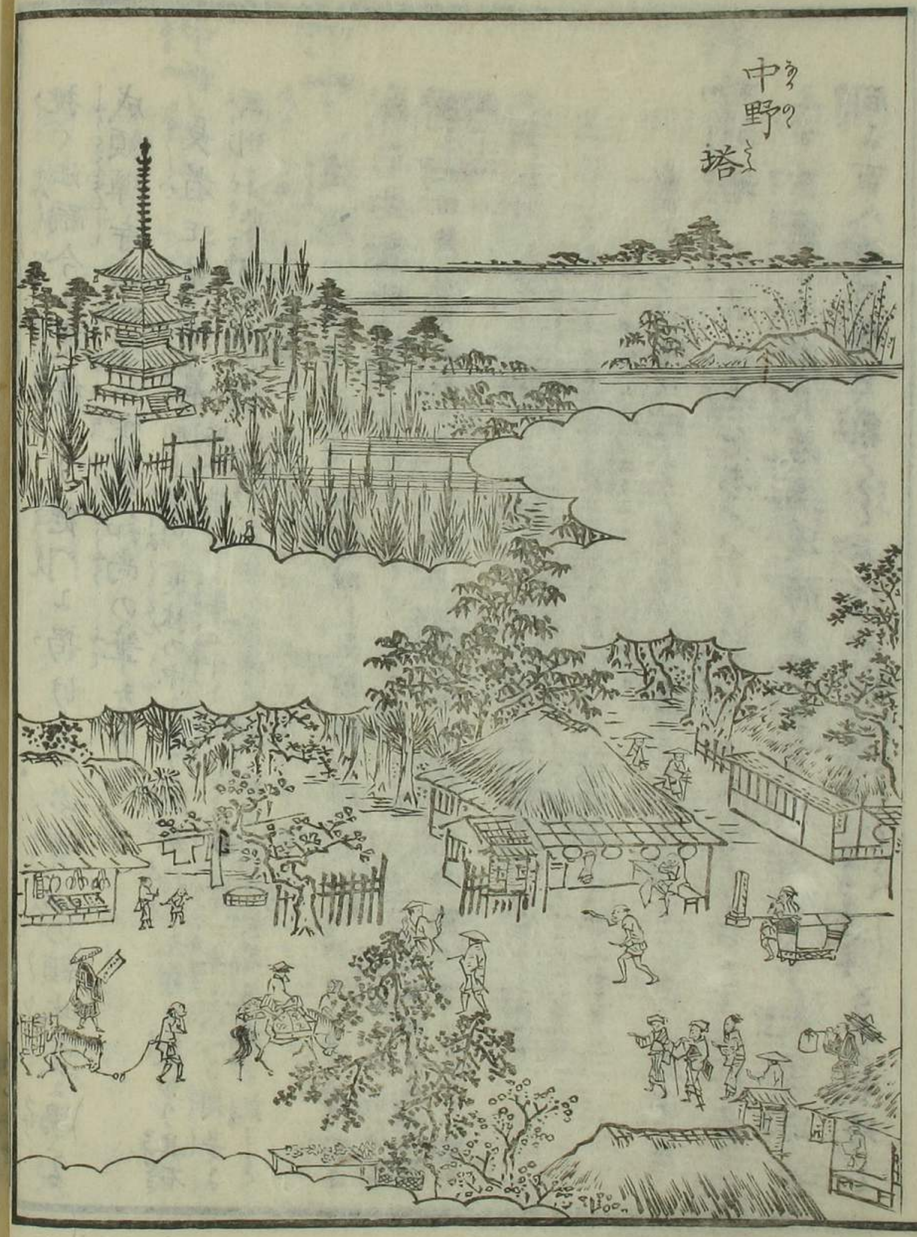
太子の真作なりとぞ前の十二所権現の社記に載る所の鈴木九郎
某本國紀州を出て其妻と共に此中野の地に移り住たりしに後
幸福を得て其家富栄えたりされども宿因ありて一人の娘
俄に死して蛇形を顕はせり春屋禅師相州関本の最階の法化に依て
畜身を解脱し上天せるを得たり十二所権現宮の手洗池を蛇池と
号くとぞ時春屋禅師の着せし法服今狩當寺に伝へり彼蛇の栖りし所土俗云ハ
受戒して自ら正蓮と改む又居宅を壊ちて精舎とし女の
法名正観の文字を以て其寺号とす女の法名を真窓正観禅女と号く永禄二年小田原北条家
の所領役帳に島津又次郎とある人の所領の内に中野内正観寺とあり号と注し
たるハ當寺のことなり時ハ永禄の頃迄ハ正観寺と唱へ後に至りて成れ
寺とハ改し諸堂坊舎三層の塔を造立し生涯優婆塞を勤行して
遂に永享十二年庚申の歳終をとれり三層塔ハ今中野の通り道より
右にあり北の条下なり狩當寺
春屋禅師より四世川庵宗鼎和尚當寺に董席して傳燈

挑く法嗣今に連綿たり總門に掲げたる多寶山の額本堂に掲たる
成願禅寺の四字ハ雪峯和尚の筆なり

中野長者正蓮墳墓

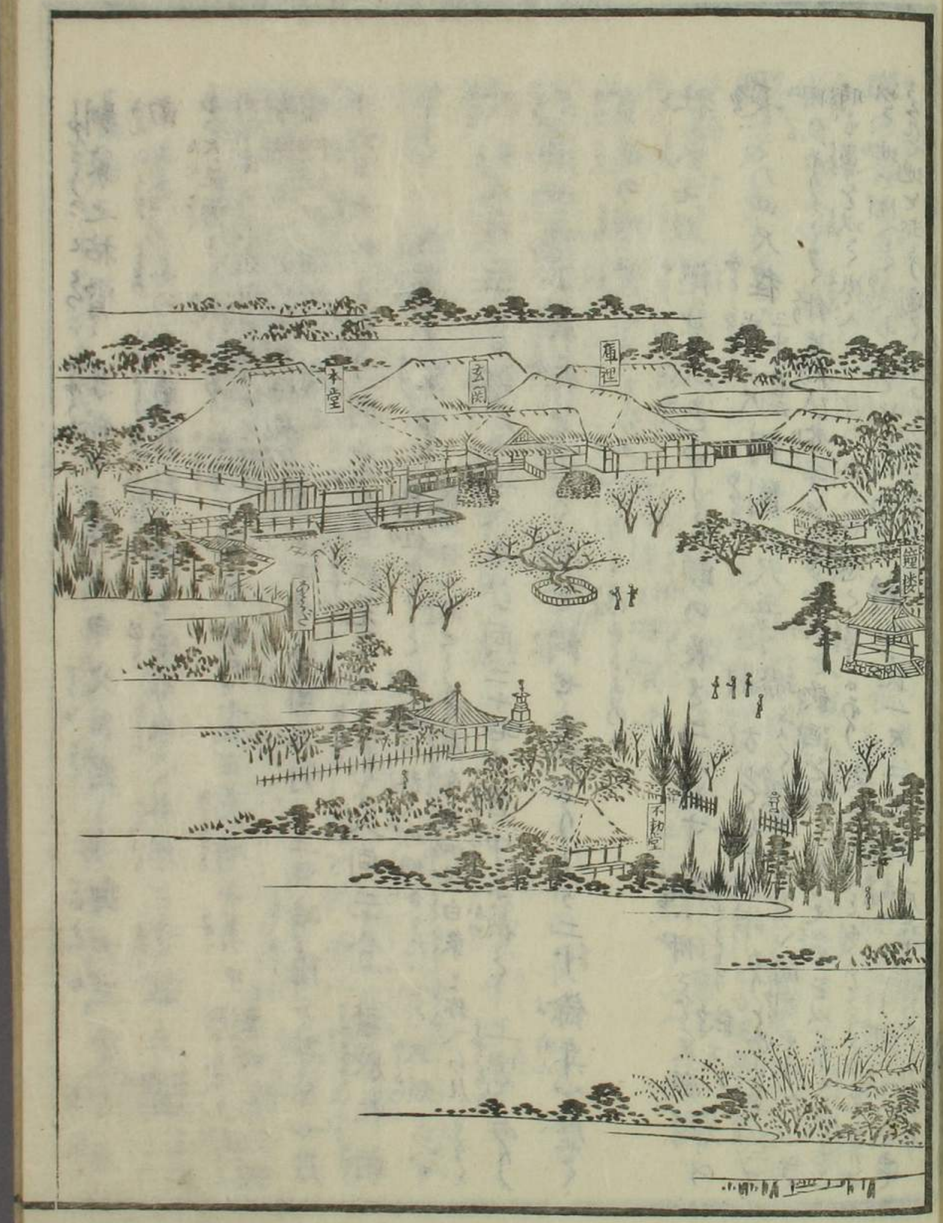
同境内叢林の中にあり開基鈴木九郎の墓なり其石塔今崩れて半土中に埋れてあり柴一本とあるハ冊子に
武州多摩郡中野の中正観寺とあり茅師の棟れに朝日長者昌蓮と記しく
ありと云云昌正同音なり同巻高田百八塚の条下に應照云
中野 泛橋の西をいふ 泛橋の下を豊島郡と多摩郡の郡界なり此地ハ多摩郡に
属す武蔵野の中央なるをもて名とす永禄二年小田原北条家の所領役
帳に太田新六郎知行の中に中野内阿佐谷又中野大場源七郎分とある地を
北國記行

中野七塔 今其所在を詳にせず或人云三所にあり
とて里語に中野長者昌蓮佛に供養の為高田に大窪迫に
間に百八員の塚を築くと云伝へ應照云高田百八塚の条下に七塔と



つくづくと其類のものあるん歟又中野の通りなる右側叢林の中に三層の塔あり七塔の一なるんと傳へ云中野長者鈴木九郎正蓮ら建立なりて昔ハ成願寺の境内なりしを後世今の地に移せりと今大日如来を本尊とせ昔の本尊ハ釋迦如来なりしを後世成願寺の本尊とす婦の肖像と称せるものを安せり中に長者鈴木氏夫

明王山宝仙寺　無動院と号し寺領あり古義の真言宗にして同西の方右側にある良辯僧都開基なりと云伝へ本尊ハ弘法大師等身の像なり　願行の作なり中興開山を聖永和尚と号し往古ハ大剥なりて此地より二十町北の方阿佐ら谷の地にありしを足利の代に至て今の地に迁すとなりされと大永の頃兵燹に罹りて佛殿僧坊悉く焦土となる因て其頃の旧記も廃亡したりとなく開創の時世等詳かなを境内普門院に不動尊の霊像を安置を良辯僧都の作とも或ハ願行の作ともいふ



中野
寶仙寺

當寺ハ享保十四年
交趾國より貢献
もくあの馴象の
枯骨あり

馴象之枯骨　享保十三年戊申交趾國より鄭大威なる者廣南に産する所の大象牝牡二頭を率ゐ来て本邦に貢献す　林信言の事物権輿に

史に大泥國より来るとあり牝象ハ同申年九月十一日長崎に於て斃せり　同年六月十三日長崎に着す　同十九日上陸す象奴二人曰潭数潭綿譯官二人曰李錫明廣南の陳阿修郷等各従ひ来る　翌十四年己酉三月十三日崎陽を立て四月十六日大坂に至り同二十六日伏見より京花に入同二十八日　禁腋に朝しく　天覧を蒙る　爵位なくして禁闕に参入の例なけれハとく獣類ながら從四位に叙せられ廣南從四位白象と称へられしと

そく同五月二十五日江戸に迎へなひ同二十七日営中に於て上覧あり

平淺中野に象厩を建て是を飼せられしか二十餘年を歴て寛延の頃斃せりといふ　當寺に存せるものハ其牡象の枯骨也

牡象　七歳　惣身灰色にして頭の長さ二尺七寸　頭ハ俯さず又顔鼻の長さ八四尺程　或ハ三尺三寸とも云　同圍一尺五寸　末の方ゆるやかにして六寸許廻ありて能ハ端ふかく凹にしてよく開闔せり中に小さき鼻孔二つ肉爪ありてよく針を拾ひ菓子をつまむ水を飲酒を吸ふにも又鼻を以てし食する時も鼻を以て捲入る一身の力ハ皆悉く鼻にあり起ても獣をとらへても先鼻を以て地を柱へて後起あかる進む口ハ頭に　牙の長一尺二寸程　或ハ一尺四寸圍八元の方にて一尺六寸許ありといへり　かれて地を摺る遠く常にハ見えぬなり

眼の長さ三寸　或ハ一寸五分形ハ篠の葉の如と云　耳の幅八寸餘　或ハ一尺三寸とも形ハ蝙蝠の翅又銀杏葉の形に似たりともいふ　胴の長さ七尺四寸同圍一丈　背の高さ五尺　或ハ五尺七寸　足の長さ二尺二寸同圍一尺五寸　或三尺五寸圍二尺五寸ともいへり足の形ハ圓柱のごとく指なく爪ハ五枚わりて栗の形に似たりとぞ惣身竝くように擁腫なれども峻嶺にのぼり羊腸を下るに電のごとく深き水を渉るも捷く其性能人に馴て其意を解を故に象奴たる者其頭にまたがり鉄鉤を以て鉤進退曲折左右をいふ　尾の長さ三尺三寸　或ハ二尺七八寸とも形牛尾に似たりとあり

牝象　五歳　惣身灰色にして頭の長さ二尺五寸鼻の長さ二尺八寸　胴の長五尺斗同圍八尺六寸背の高さ四尺七寸　或ハ四尺ありと　牙の長さ五寸程ありて其餘ハ牡象に等しといへり　此牝象ハ長崎にありし頃斃して江戸へ来らざりしハ牡象のみなり

飼料　一日の間に新菜二百斤　篠の葉百五十斤　青草百斤　芭蕉二株根を省く　饅頭五十　橙五十　九年母三十　又折節大豆を煮冷して飼ふ事あり　湯水一度に二斗計あたへし　大唐米八升　其内四升程ハ粥に焚て冷し置て是を飼ふ　青草の中にも附に俗間に角力取草と称するものを好みて食ふ此青草なき折からハ籾を茎穂ともに飼或ハ藁大根のたぐひも食ふとあり又好んで酒を飲といへり

時しあれハひとの國なるけたものもけふ九重にみるがうれしき　御製

甘露集　めつらしく都にきさの唐やまとこえきし野山ハ幾千里なる　霊元法皇

情しらきたのこゝろよかるへくかはるぬやとこのはもなれなそ　同
これもまこと此時のりとかきつめてこそもむらきたのやまとことはなる　同
不昧直院集
此國ふるたちかつくやたちまことふるあめこゝ猶こゝして　光栄
佛のゐをとゝ歌のまゝやこゝ言をもむをもはんにしたとそ　同
芳雲集
たゝへしを民のちゝもそゝへくハ豊かに世のきさしとそこゝる　実蔭
いとゝもそこゝねをこゝしれやまとあるきさやゆつの名ふきそも　同
民をこゝふたをけくきたのたゝやさハとわゝんよそやゝあるへき　同
家集
此あををあるこゝものやんあるをこゝも洞ふゝわこゝそこゝん　通躬
おのゝをもむまをあ里をきたのこゝろをなふ　公福
ゐふきこゝをたさゝひのこゝをゝこゝるもめつし　為久

桃園　同所西北の方十町ばかり

樹を栽しめあひをを頃　台命ありとゝ今も弥生の頃紅白色をまゝへく一時の奇観なり此地ハ

大将軍家御遊猟の時の御腰掛の地あり又岡の前を流る小川ハ架せる橋を石神橋と唱ふ此あれハ石神の三室寺の池より発する所の余流なり

桃園観音堂　土人ハ桃堂と称せり同所高圓寺村の高圓寺と

いふる禅林ハ安置を本尊ハ聖観音ゆゝく恵心僧都の彫像なりと

いふを　当寺ハ中野の成願寺ハ属也弘治年間の草創ゆゝく開山を建室和尚と号く

山号を御殿山とも称へき旨　大将軍家度く当寺へ立寄らせ給ひ假の御殿ありしハ当寺の

台命あり又当寺境内を頃ハ桃樹多くして桃園と

間く桃樹を多く栽しめ桃園と余せられしとなり　享保ハ新ハ中野の地ハ桃園をつゝみ田圃の

桃園の旧地なりと　故ハ土人ハ当寺を

阿佐谷神明宮　同西の方阿佐谷ハ小田原北条家の所領役帳ハ中野内阿佐谷とあり　祭神

八町計り　太田新六郎の所領中ゝく昔ハ中野ハ属せし小名なりしと

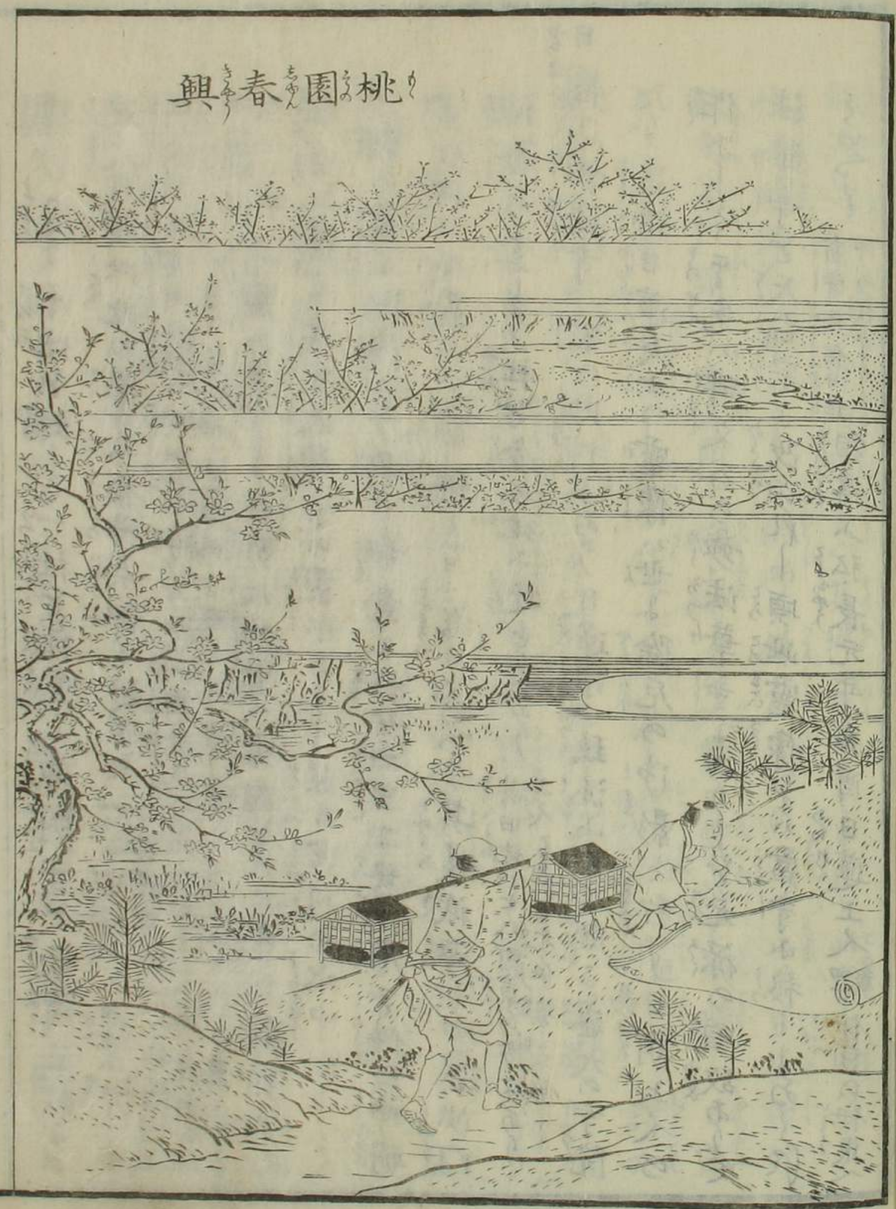
伊勢ハ相同し神躰ハ一顆の霊石なり毎歳九月十六日を祭祀の

辰とも別当ハ真言宗ゆゝく阿谷山世尊院と号也　中野の宝仙寺ハ属す則宝仙寺の

旧地相伝ふ　景行天皇の四十四年日本武尊東夷を征伐しの

御凱陣の時この地ハ休らひしハ後土人ハ尊の武功を

桃園春興



墓ひまり地を封して一社を経営し神明宮を勧請す然るに
建久の頃此地の農民横井兵部といふる人（此人の遠裔今も此地に住し子孫連綿）
頼義朝臣奥州征伐の時此地に駐り此横井氏の祖兵部といふ者随兵に加
曲を家に祈願あるべしと云（昔源
驛舎に宿す其夜太神宮の霊示あり翌日宮川の水中に
一顆の霊石を得るに依て神意に任せ田里に携へ帰る件の神明
宮の社に安置しく神躰となるとのつり其後祇海とのつる沙門
神告あるべしと社を今の地に迁すとあり（其田地は七八町東の方にあり土人これを元伊勢と称す）
日圓山妙法寺　堀の内村にあり日蓮宗一致派にして頗る盛大の寺院
たり宗祖日蓮大士の霊像は世に除厄の浄影と称す日朗上人の
作にして先は碑文谷の妙法華寺にあるを元禄の頃故ありて
法華寺を天台宗に改られし頃此霊像をは当寺に移しまゐらせ
たるなり（当寺住侶日性師の代なり）相傳に弘長元年辛酉日蓮上人（四十歳）伊豆の伊東へ

配流せらるる日朗師随身しく其地に至らんとされと此事協はす
依其時上人の命ありて日朗師は鎌倉由井の濱に止て日夜師の
赦免を祈請す或夕同し海上中に一箇の霊木を感得し日蓮
上人の真像を手刻し常に仕へて怠らす（此浄影は宗祖大師の像を造るの權輿なり）
感應の時至りて弘長三年癸亥五月赦免あり日蓮上人
鎌倉に還るに項此像を以て感悦まし我心神今より
此木像に入るべしと永く来際に至る迄救護衆生の利益無窮あん
我既に四十二歳にして救を得しは此木像に除厄の号を称へし
て自ら點眼なりしとなり
加持符　有信の輩三七日の間此符に對し正念に唱題誦経されは寄願成就
或は家の柱に貼す（故に世俗張浄符といつり相傳日蓮上人伊豆の伊東にて壁上
る配所に在せし八幡大菩薩の霊應あり後日浪師是を伝りしより已降世人に相兼もるとのつり）
當寺は遥に都下を離れしとへとも霊験著故に諸人遠を厭ふ

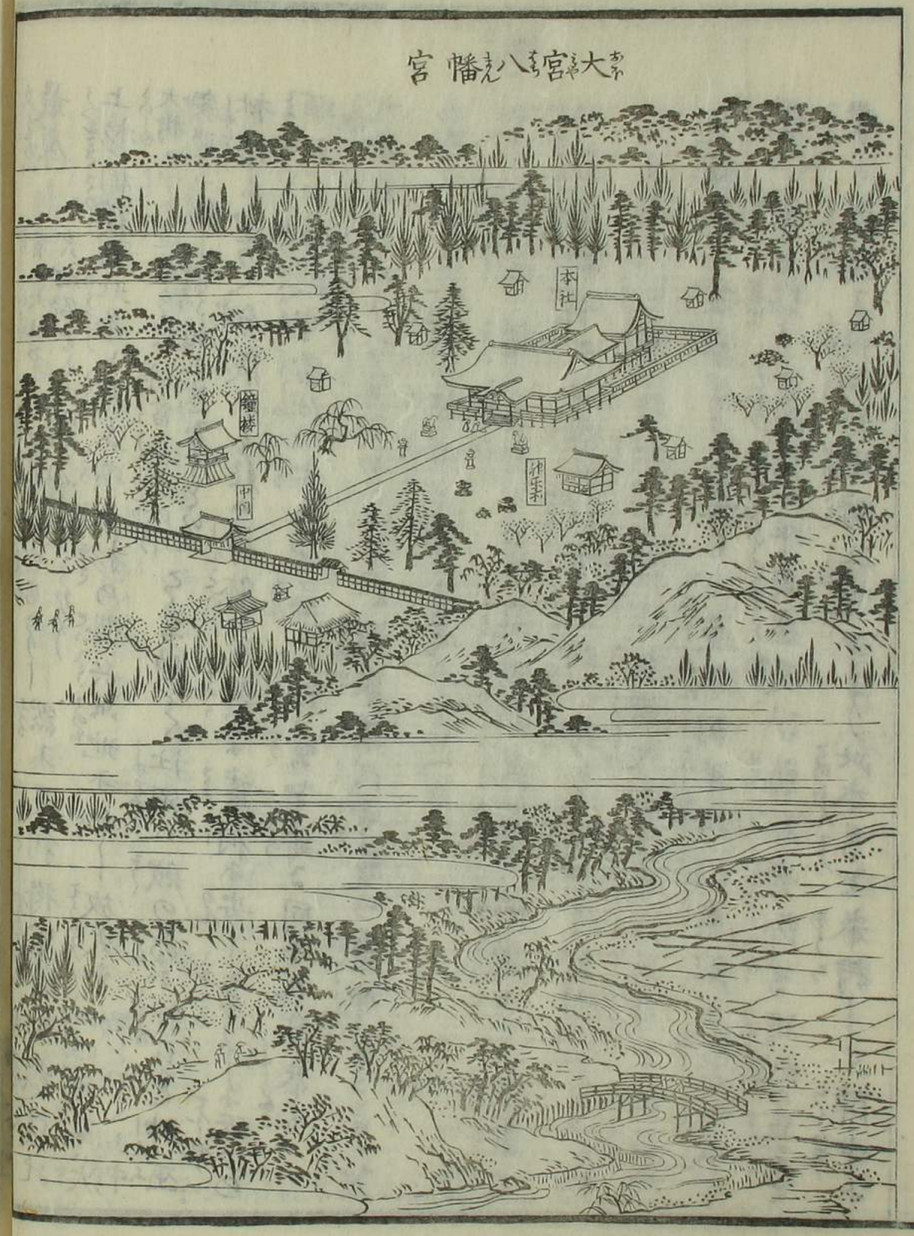
堀の内
妙法寺

當寺ハ安置の日蓮大士の感應ハ多ク唐土ニ及ぶ風雨寒暑といへども都鄙の貴賤日毎ニこゝ詣して百度参ぶ此時絶ることなし 毎年七月の法華千部會十月の會式ハ八祥参稽扇の如く駢闐を埋の及ふなり

〻〻歩行を運ひ渇仰す毎年七月法華千部十月十三日浄影供を
修行せ平間群参稲荷の如し
大宮八幡宮　和田村ふ和多ふ和田八幡宮共称せり別當ハ真言宗に
して幡降山大宮寺と号く昔ハ中野の宝仙寺奉祠ふ例祭ハ九月十九日と
三十一日迄三日の間市立く賑ふ　神躰　應神天皇又左右ふ二神あれとも往古の兵燹よ
羅ふく舊記亡ひ〻〻て神名詳ならす疑ふらくハ仁徳天皇と
高良臣なるへきか何とも霊妙奇異ゆ〻〻文彩を加へ也大古質
朴の風あり〻〻彫刻最巧なるすいつれも元禄の末より神厨子を釘
付し拝せ〻〻て天明年間別當祐照法印一七日行法あり〻〻て後慎んてこれを開き神像を拝し
画し拝よ　相傳當社ハ其先多田満仲の勧請なりといつを後源
頼義朝臣奥州征代出陣の時種々の霊瑞ありて神像を感得し康平
六年凱陣の時より〻〻宮居を営建し源家守護の神とす故に
右大将頼朝卿又相州鶴ヶ岡ふ等しく神殿僧坊を重修あり信心

最厚し　昔ハ大社にして壮麗なる宮居ありし然ふ足利将軍の世越後北
ふハ地名とも大宮と称来ることなり上杉相模の北条と戦ふ頃上杉の勢兵此地ふ屯し放火せ
大樹の下ふ道れのふを別當真順法印こ〻ふ到りて社領ハ賊のなふ掠らを神巫
祭祀ふ移し紛ふ差あ〻しとの〻社僧も四方へ分散し〻れハ神躰の〻絶よ叢祠ふ安し〻〻ふ天正の
頃大石信濃守當社の古きを尋く神宮を建る同十九年忝も
大神君此地よ台駕をめ〻〻れ源家累代守護の霊神なりとを
あろ〻めを〻れ新ふ神領を附し〻〻りといつを
幡ヶ谷不動明王　幡ヶ谷村よあり真言宗光明山荘厳寺よ安置せ
本尊不動明王の像ハ智證大師の作なり毎年四月八日より同
十八日迄内拝せ〻む相傳ふ往古智證大師江州三井寺を創建の
時彫刻の霊像なりと〻〻を天慶年間平将門東國ふ在て逆威を
震ひ帝を悩し奉るふ平貞盛及ひ藤原秀郷等追討の宣旨を
蒙て東國よ發向せ平時三井寺より此ふ奉持し〻〻陣中ふ

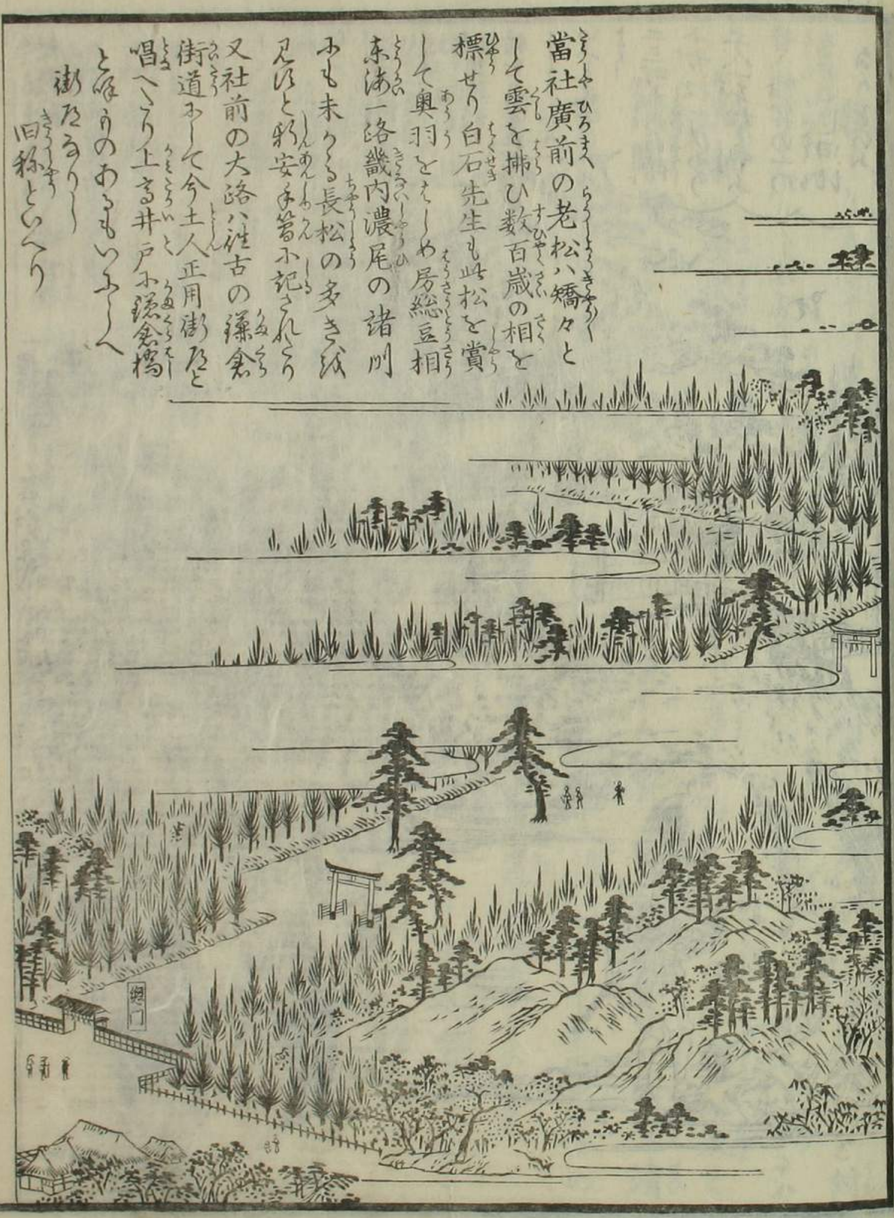
大宮八幡宮



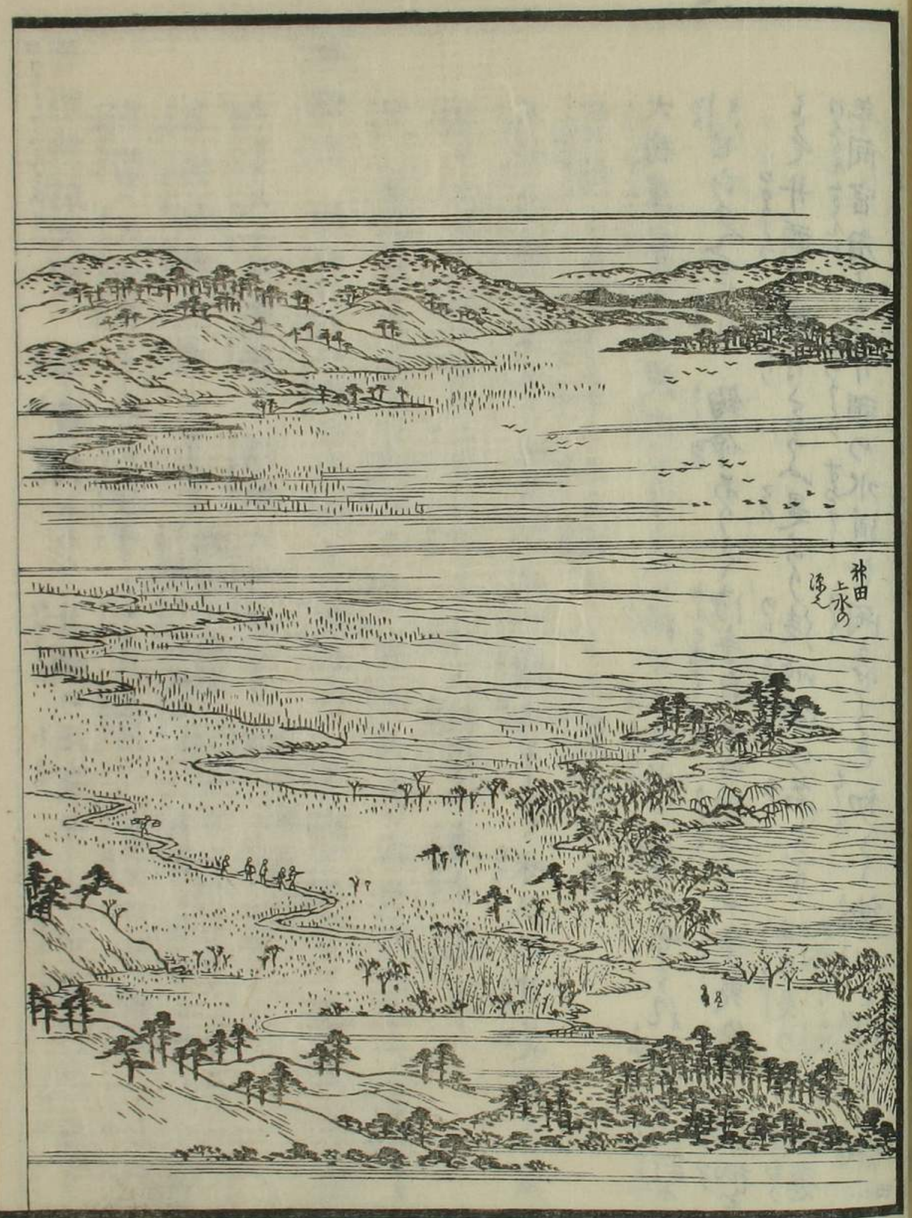
當社廣前の老松ハ矯々として雲を排ひ數百歳の相を標せり白石先生も此松を賞して奥羽をそしめ房総豆相未渉一路畿内濃尾の諸川ゐも未うゝる長松の多き様見ぶと彩安本筥小記されゝ

又社前の大路ハ往古の繁盛街道ゆゑて今土人正月御ぶと唱へゝ上言井戸水繁盛掬とぶゝのゆゑもいふゝへ

御ぶゝゝ
旧称といへり



移し軍の勝利を祈誓せしゝ同三年庚子果しゝく待門を討
亡したりしゝより後此霊像を下野國小山郷へ迁しまゐらせ然るに
永禄の頃武田信玄甲州より安座しまりしを又北条氏政奪ひ取く
相州築井といへるの寺院へ入まりしを竟に天正十八年四海安靖
なるに及んで當國多磨郡宅部の三光院へ使へありしを霊夢の
應あるを以て延享四年丁卯永く當寺へ安置しまるとのくも
井口山慈宏寺　大宮前新田川越海道の右側にあり日蓮宗にゝ
寛文年中の草創開山ハ日賢上人と号し本尊ハ三宝を安も
當寺へ安置の日蓮大士の像ハ日朗上人の作なり相傳へ弘長元年
辛酉五月十二日大士伊豆の伊東へ流せしゝ朗師大士の別れを惜ミ
まゐらせ霊木を得て大士の影像二軀を彫刻あり一躰ハ座像にして始碑文谷の
法華寺へあり〳〵後堀の内妙法寺へ安置す其二ハ立像にゝ當寺へ安置せり即
此霊像題目の旅行の躰相わるに世へ光明木板立の御影も拓しゝ
大士鎌倉へ立帰ゝ給ふの後黙眠ありしゝ


井田
上水の
流

井頭池
弁財天社
本社
拝殿
弁天
山岳

井頭辨財天宮　年禮村よあり井頭の池霊やしく中島に宮居を
別當ハ天台宗やして大盛寺と号ス相伝ふ建久八年鎌倉右府将
軍頼朝卿創建しゆへこ正慶年間新田義貞鎌倉と對陣の時當社ハ軍
勝利を祈念し北条家をせされしとなり
本尊天女の霊像ハ傳教大師作なり　寛永十三年丙子社僧建立あり

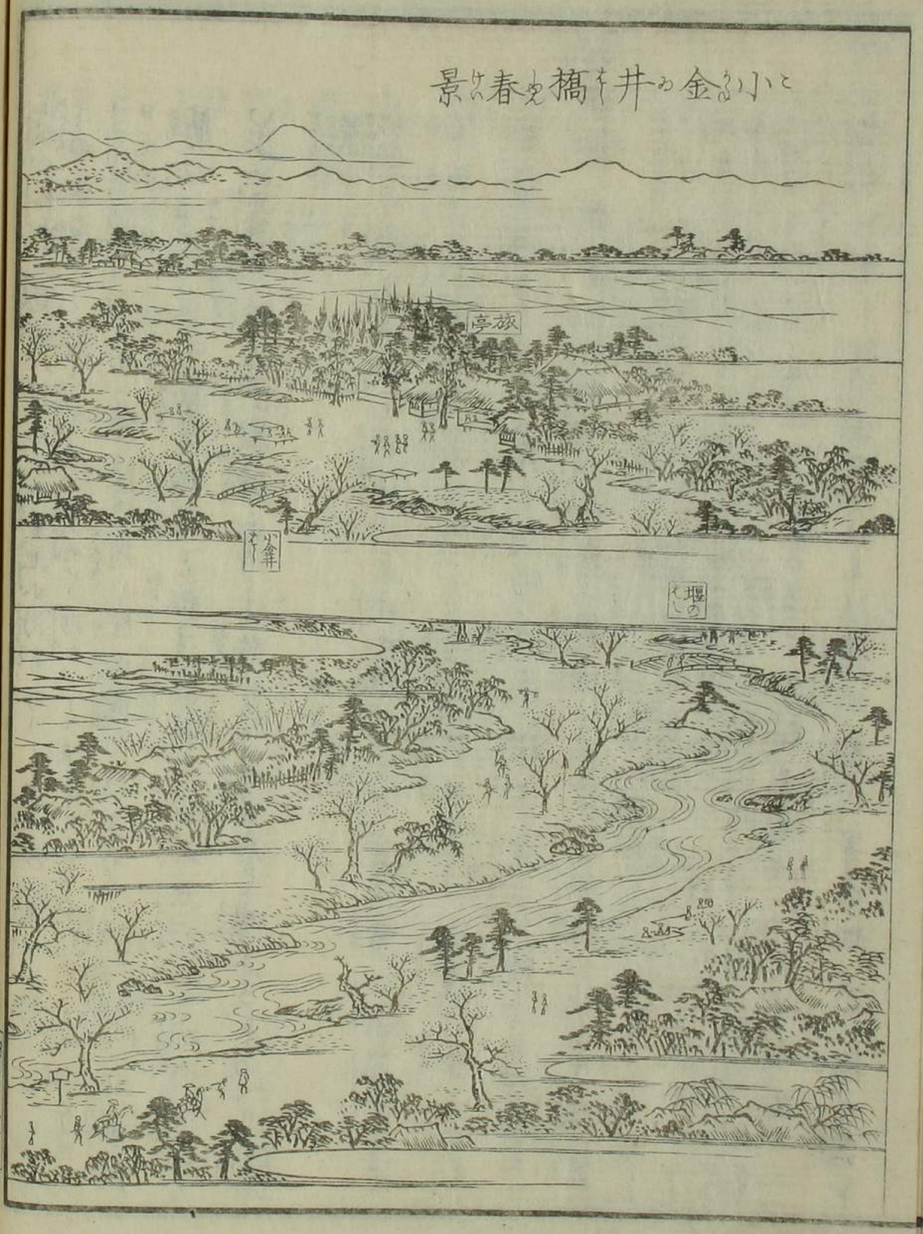
井頭池　神田上水の源なり長さハ西北より東南へ曲りて三百歩ばかり
巾ハ百歩あまりなれども池中ハ清泉涌出る所七所あり旱魃も
涸るゝなし故ふ世ハ七井の池とも称ふ相伝ふ慶長十一年
大神君適こふ至らせのひ池水清冷やして味ひの甘美なる称
賞揚しゆひ茶の水ハ汲せる又寛永六年
大将軍家こふ渡御なりひ深く此池水を愛させられ大城の傍許ふ
引せらるへき旨　釣命あり依て手自池の傍なる辛夷の樹ふ植ふ柄を
とて井頭と彫付ふ是より後此池の名とす　其辛夷の木ハ大盛寺ふ收蔵し兼應
年間官府より井頭の水道を開ふせるを初て神田ふ引ふ故ふ神田と

上水の称あり　寛永八年辛未の夏池水渇なり天海大僧正加持しなひしよ
頃霊感のあり頃ハ田の湧出なり固なり今も毎年三月
十五日より四月十五日　清楊枝の柳ハ聖天堂の後ふあり腰掛の臥竜松
日迄水加持あり　藤　今在所さく三ツ杉ハ神木と称す西北の方ハ立陵を今御殿山と
いふハ昔省耕の御殿館あり跡なるかふ唱へるとへり

樹木
繁生す
此池ハ清泉やして炎天ふと水の減せるなり常ふ沁沸として
湧出す　其地最閑寂やして池辺柳樹多く初夏の頃ふハ
新葉黐くとして陰を成し浅翠嬌青碧空を蔽ふ似たり

金井橋　多摩川の上水堰両岸の芝塘ふあり金井村ふ架す故ふ名
とす　水源小川村より新橋の東北千川上水の御口のあり凡一里あり両岸を
櫻やして左右の両岸九村ふ跨る架せる橋大小七ふあり
何も地名ふより名付ふ　金井橋の類
播磨江戸ふ至るまて直流凡十里あり是と王川上水と号す　美應の頃始て
水流を大江戸ふ此地の櫻花ハ享保年間或云元文二年丁巳　郡官川崎某
台命を奉し和州吉野山ふ常州櫻川等の地より櫻の苗を

貫井
堤の


小金井の堤の春の景
旅亭
小金井
堤の

小金井橋ハ小金井邑の地ゝ傍て
流る玉の玉川上水の素堀り
架ける故ゝ此名あり岸と夾む
櫻花ハ数千株の樹試垂へ
落英繽紛たり両花の時
橋上より眺望もれハ
雪とまがふ雲とまがひて
一目千里ゑ後盡る際ハ
もゝしく仍て都下此遊人
遠と厭もしてもゝ遊賞
もゝるものゝ少ゝ
橋ゝ酒と煙草
茶と煮あ
ゑ之店あり
遊人或ハ
憩ひ或ハ
[illegible]

殖らゝわゝ〻く其數凡一萬余株あゝゝとそ今存ふの古木一圍よ
頃まて八年ふ官府よりこれを殖つるせゆひしと延享の
今ハ年歟大ふ減く凡三百株あゝり所なり立春より五十四五日目の頃
開初ゝ六十日目を滿開の期とす七十日目の頃ふ至りてハ落花も
最年の寒暖ふよりゝく少しの遲速ハありといへとも大方ハ違ハも
就中金井橋の辺ハ佳境ふして爛熳ゝゝ然ふて両岸の櫻玉
川の流れを夾んて一目千里実よ前後尽る際をゝゝ
遊へハさ〻ゝゝ白雲の中ふあるかゝ蓬壺の仙臺よ至るゝゝ
しゝる最奇觀ゝゝ近年都下の騷人韻士遠を厭ハすしてゝふ
来て遊賞す

津久戸明神社　築土銀町よあり　此地ハ牛込と小日向の界中て　別當ハ天台
宗やゝく善龍山成就院と号ス　當社の方ハ牛込よ屬す　本地佛ハ聖觀音傳教大師ゝ
作なり相傳ふ天慶三年庚子相馬將門誅せゝれゝ後て首級を
當國江戸平川の觀音堂へ移ゝ是を齋ゝく津久戸明神と称も

文明十年戊戌太田道灌江戸城の鎮守とゝく宮社を造立
ありゝゝとそ永享記よ武州入間郡川越の城の乾よ氷川明
神の社あゝふ準へ文明十年戊戌六月五日江戸城の乾よ津久戸
明神を勸請をと云く　江戸砂子よ永享記を引くかくゝひ　又中古治乱記
江戸城を築ゝ条下よ津久戸明神ハ氷川と同躰の由なれハ素盞
嗚尊なりとそ

按よ將門の靈ハ後ふ合祭ゝゝ　南向亭茶話よ云く筑戸日ハ次戸と
書も往古ハ江戸明神と江戸城の鎮守ゝ江と次と字形相似ゝよりて
ものの項ゝゝ謬て来ゝゝとあり是ふ依く考ゝハ當社ハ武蔵國風
土記ふ載ゝゝの江戸神社ゝゝん欤祭神もまゝ素盞嗚尊ゝゝく風
土記ゝ合せり犯弟五巻神田明神の祭下江戸の神社の考へを附せりてしあり

當社ハ往古上平川の地よありゝを天正七年己卯田安の地よ遷座又
元和二年丙辰今の地へ移ゝまる　昔ハ筑戸と作る後改めく築土とす　中古田安の地よ鎮
座の項ハ田安明神と唱へゝとあり　祭禮ハ九月十五日なり

築土八幡宮　津久戸明神の宮居よ並ふ地主の神ゝく別當ハ天台

築土八幡宮
桐神明社

宗松靈山無量寺と号す

祭神應神天皇神功皇后仲哀天皇以上三座なり相住み　嵯峨天皇の御宇此地に一人の老翁住て常に八幡宮を尊信す或時當社の御神此翁に夢中に託して永く此地に跡を垂たまふとなり老翁奇異の思をなす其翌日一松樹の上に瑞雲霞霧して旌旗の如くなるを見る（松靈山の号時に一羽の白鳩来りて同じ樹間に発ると云）郷人翁に霊夢を聞く直に此樹下に瑞籬を繞らして八幡宮と崇む遥の後慈覚大師東國遊化の頃傳教大師彫造しまつる和の阿弥陀如来を本地佛とし小祠を経始す後文明年間江戸の城主上杉朝臣社壇を修飾し此地の産土神とす（或書に曰当社の地は往古菅領上杉時氏の墨の旧跡）

逢坂（或大坂）　牛込船河原町の西今軽子坂と呼へるハ是なり（此坂下佐溝横の町家を揚場町と称す揚場を船の通路に此所より流を揚る故に揚場町の唱あり此地に船子の住居あり坂の名とせりと云）

奈良帝の御宇小野美佐吾といふる人武蔵守に任して此國へ下る

年頃此ところに玄及藤とものひてこゝにかくもいつくしき女ありけり美佐吾こひをめてこゝにむかへり月日経て美佐吾ハ帝に申ふるり奈良の都に上る若草山の麓に住ふるいく程もなくまうりぬる時美佐吾いひけるハ我死ん後ハかゝ子亡骸を武蔵の國に おくりさねるこゝろ住る辺へ葬るへしとなきさけと境ちゝ隔ぬるゆゑハとて大和の國なりける若草山の麓に葬つ墓を武蔵野とるつけをあもしこゝ塚ともむ塚とも呼ひなゝハ美佐吾しこゝり（地の古老伝云むさ塚大納言兼武蔵守良岑安世卿の古墳なりと）

こゝ身まうりぬるもこゝろ

佛ふちうひあけくを歎き悲しまるる夜夢のさゝ

ゝまに八此所ふきゝりしまゝして美佐吾にあひぬありしゝ

かゝゝぬ姿ゆりしゝハゝ

ゝと出ゆえてきゝ

ゝむこゝ

るふ事姿乃消うせよ名られハ美佐吾ろ身まろりぬるをもりて
此めくりの淵ゟ身を投く空しくなりうりとなりまるまりり後
此所を逢坂といくりとゐん（神乗坂の西の小坂を土俗幽美坂とよ恐らくハ逢坂と混し云歟又地名をめ坂といひ女の名とす）

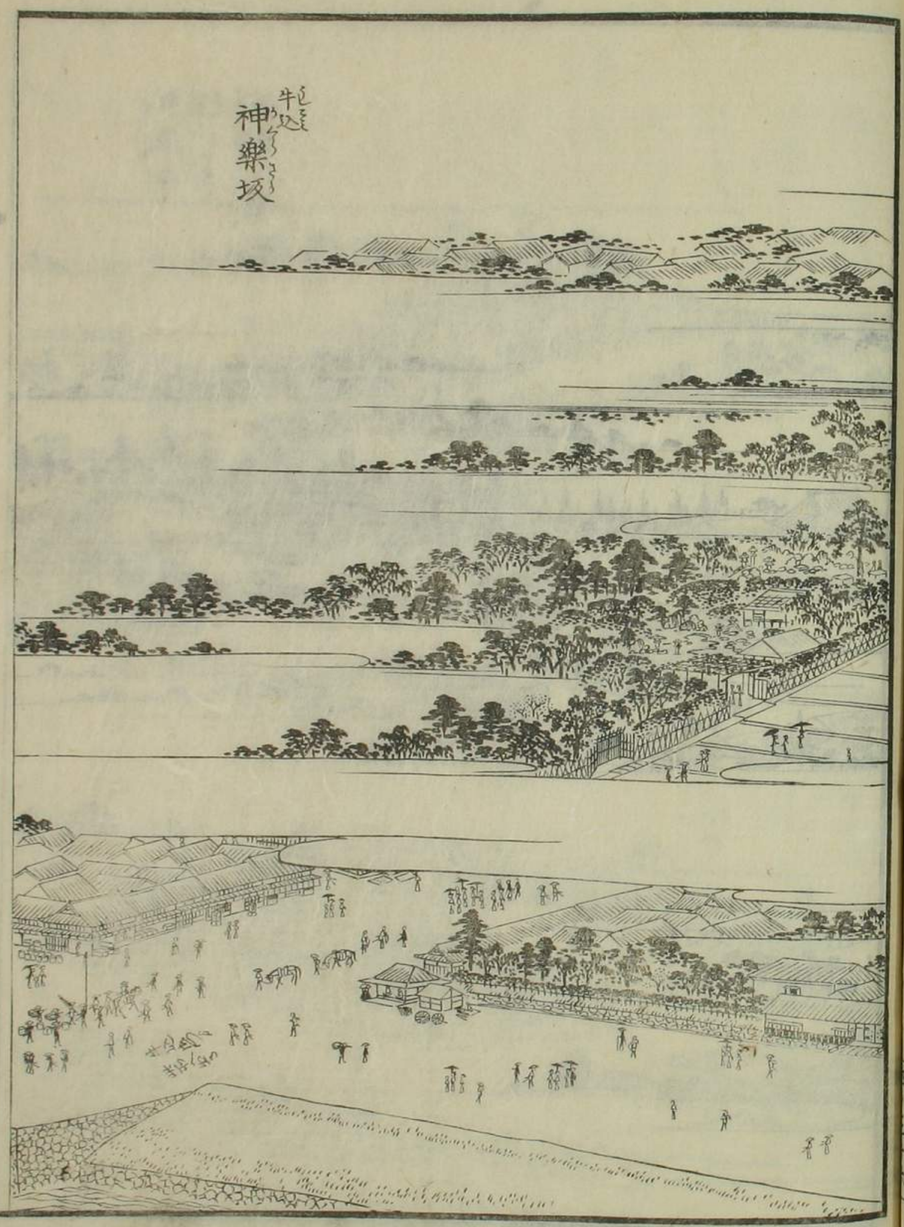
神樂坂　同所牛込の御門より外の坂をの〳〵坂の半腹右側ゟ高田穴八幡の旅所あり祭礼の時ハ神輿此所ゟ渡らせらるゝ其時神乗を奏せる故ゟ此号ありといふ（或云津久土明神田安の地より今の処へ遷座の時此坂ゟて神乗常ゟ神乗の音此坂迄きこゆる故ゟ号くとも又若宮八幡の社近くして）

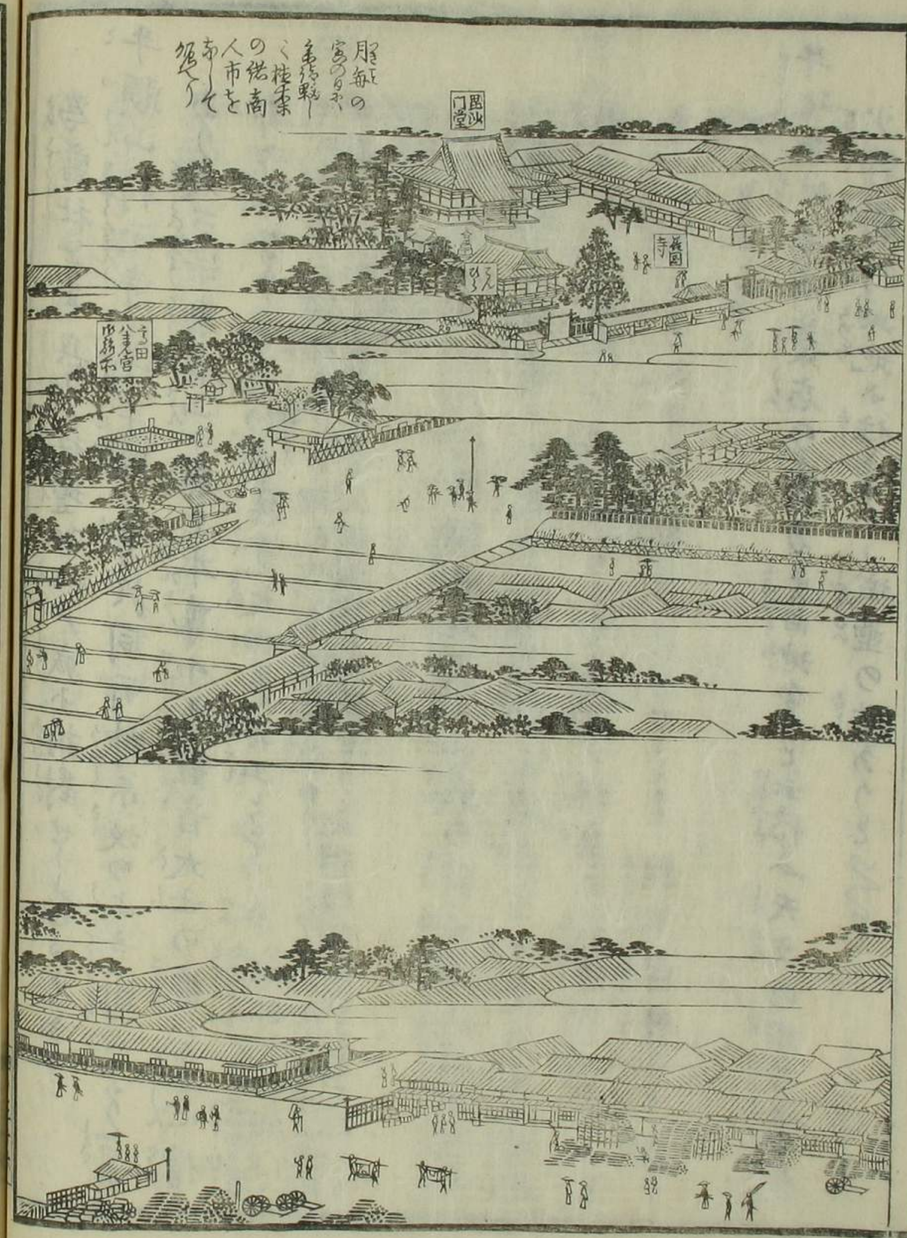
若宮八幡宮　同所若宮坂の上若宮町ゟあり（或若宮小路別當ハ天台宗普門院と号ス相傳ふ文治五年の秋右大將頼朝卿奥州の泰衡を征伐せんゝ為ゟ發向せ時宿願ありく奥州平治の後當社を營ミ鎌倉鶴ゝ岡の若宮八幡宮を移し祭らるゝ（若宮ハ仁德天皇なり後應神天皇ゟ改め祭ると云）いへり文明年間太田道灌江戸城鎮護の為當社を再興し社壇を江戸城ゟ相對せしむるとあり

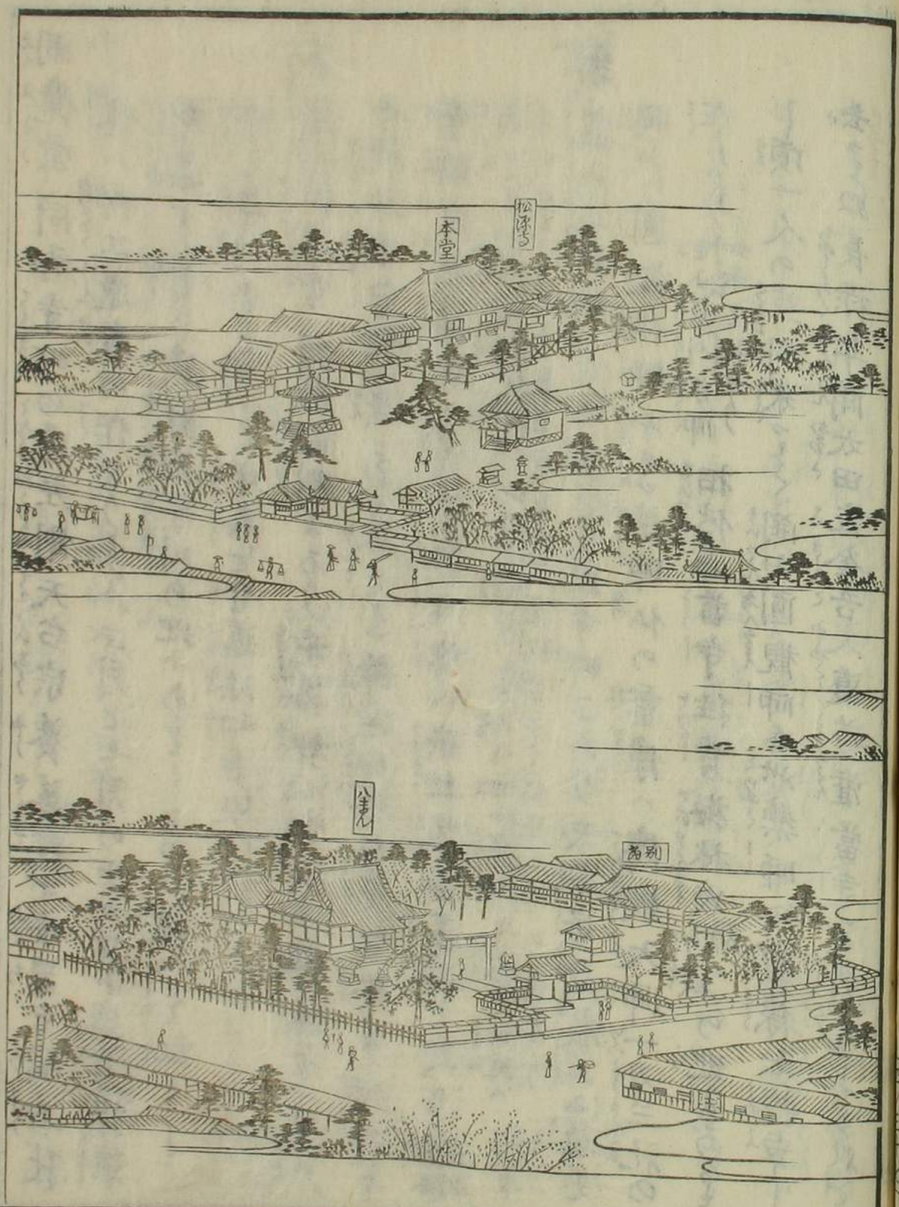
牛頭山行元寺　千手院と号ス同所神乗坂の上寺町道より右ゟあり天台宗東叡山ゟ属せ本尊千手觀音大士の像ハ恵心僧都の作なり　禅懸の木　慈覚大師を宥山と号ス云（土俗傳ふ云當寺昔ハ大利やして總門ハ今の牛込門の辺ゟありく神乗坂を中門の旧跡ゟ大永の兵乱ゟ堂塔破壊せ頃のもの〻古き大般若経を秘蔵せりと云昔門内左右ゟ南天樹多ろ潮天寺と字せり世俗今も）

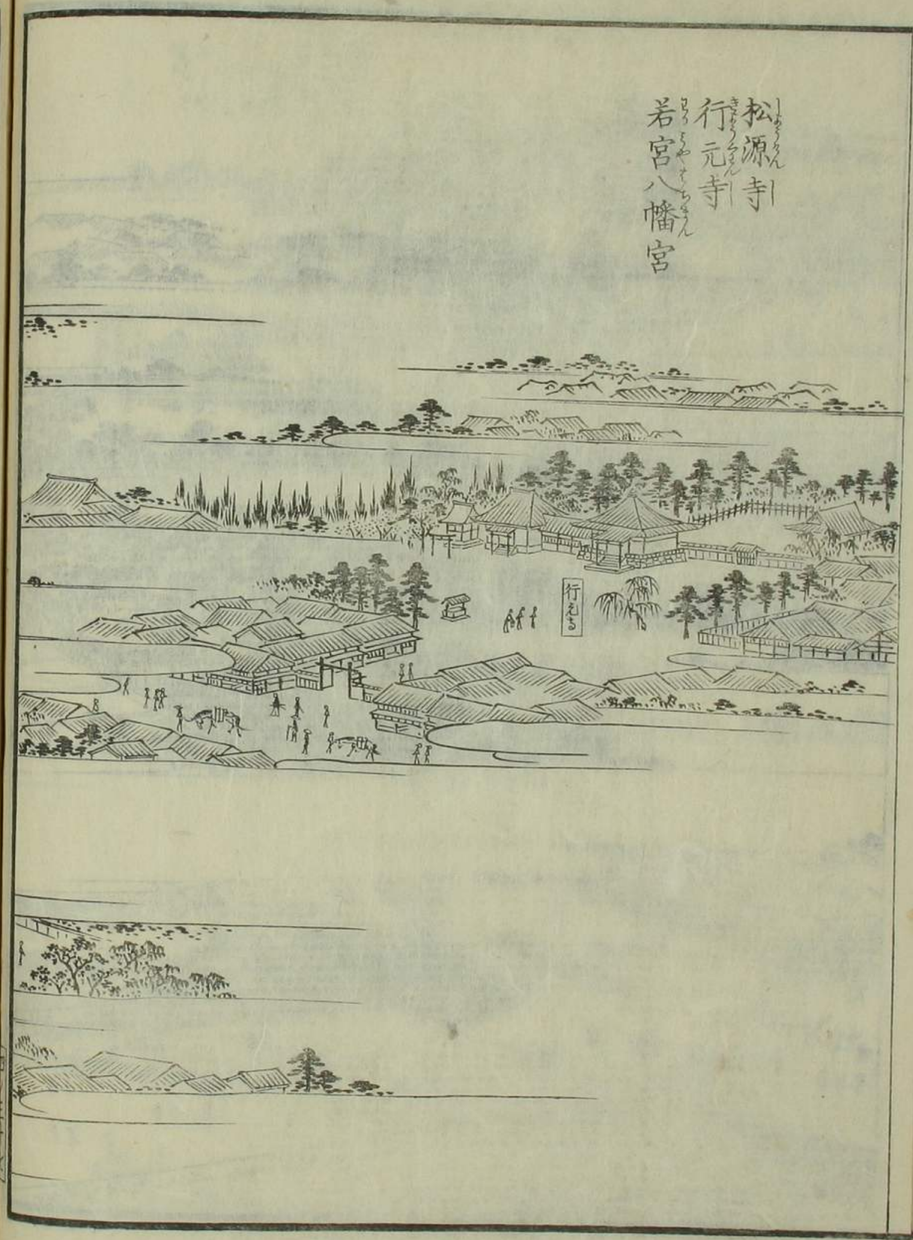
本尊縁起云右大將頼朝卿石橋山合戦の後安房上總を歴く下總國より此國ゟ打越ゆふ頃る前ゟ通夜せ夜の夢ゟ頼朝卿自ら此靈像を禅ゟかけ〻まり源家の武運を開くとえゆふ後果し〻く天下を一統せ〻れ〻しより頼朝禅懸のる像と称へまるると云く

牛込城址　同所藁店の上の方至田地ありと云傳ふ天文の頃牛込宮内少輔勝行此地ゟ住り〻城壘の跡ありとい〻る


牛込
神樂坂


毎月の
寺の
の
人市を


松源寺
本堂
八まん
別當


松源寺
行元寺
若宮八幡宮
行元寺

閻魔堂　同所寺町の通左側天台宗養善院ゆ安置せ閻王孔
像ハ佛工運慶の作なりとゝゆふ正月と七月の十六日ゆハ叅詣の輩
群集す　昔ハ御城内平川の地ゆあるゝ　とゝひ傳へ事証とゝく
今も平川寺と号く中興と智導法印とゝゆふ

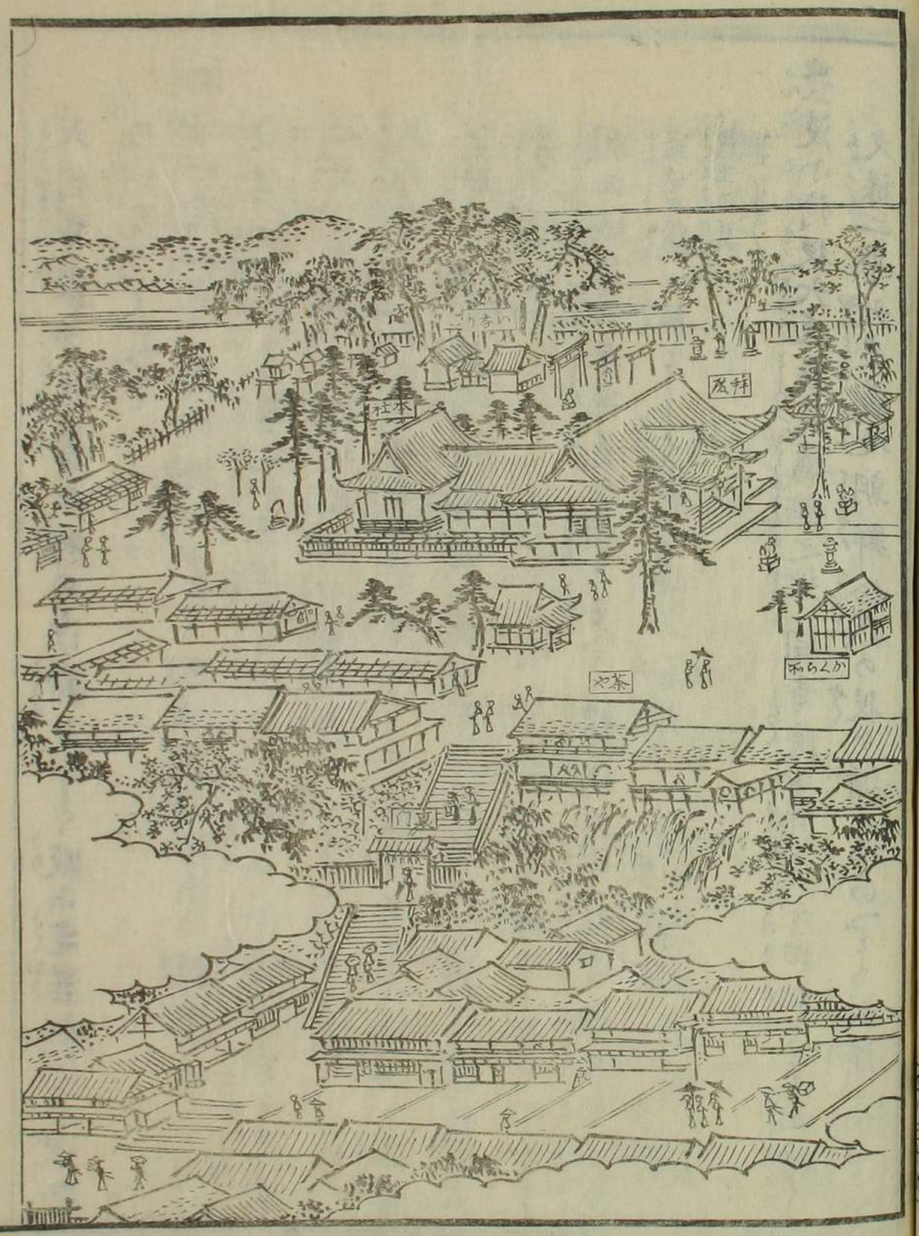
蒼龍山松源寺　同所向側よあり花洛妙心寺派の禪林ゆして江戸
の觸頭四ヶ寺の一員とゝも本尊ゆ釋迦如来の像を安す閑山を
靈鑑普照禪師と号ゆ禪師諱ハ宗丘字を蓬山とゝゆふ　俗ゆ長刀
蓬山とゝゆふ昔境内ゆ猿をつゝきて置とゝ今も世ゆ猿寺と号く旧地ハ
番町なりとゝゆふ　観音堂ゆ尊ハ聖観音ゆく弘法大師の作なり

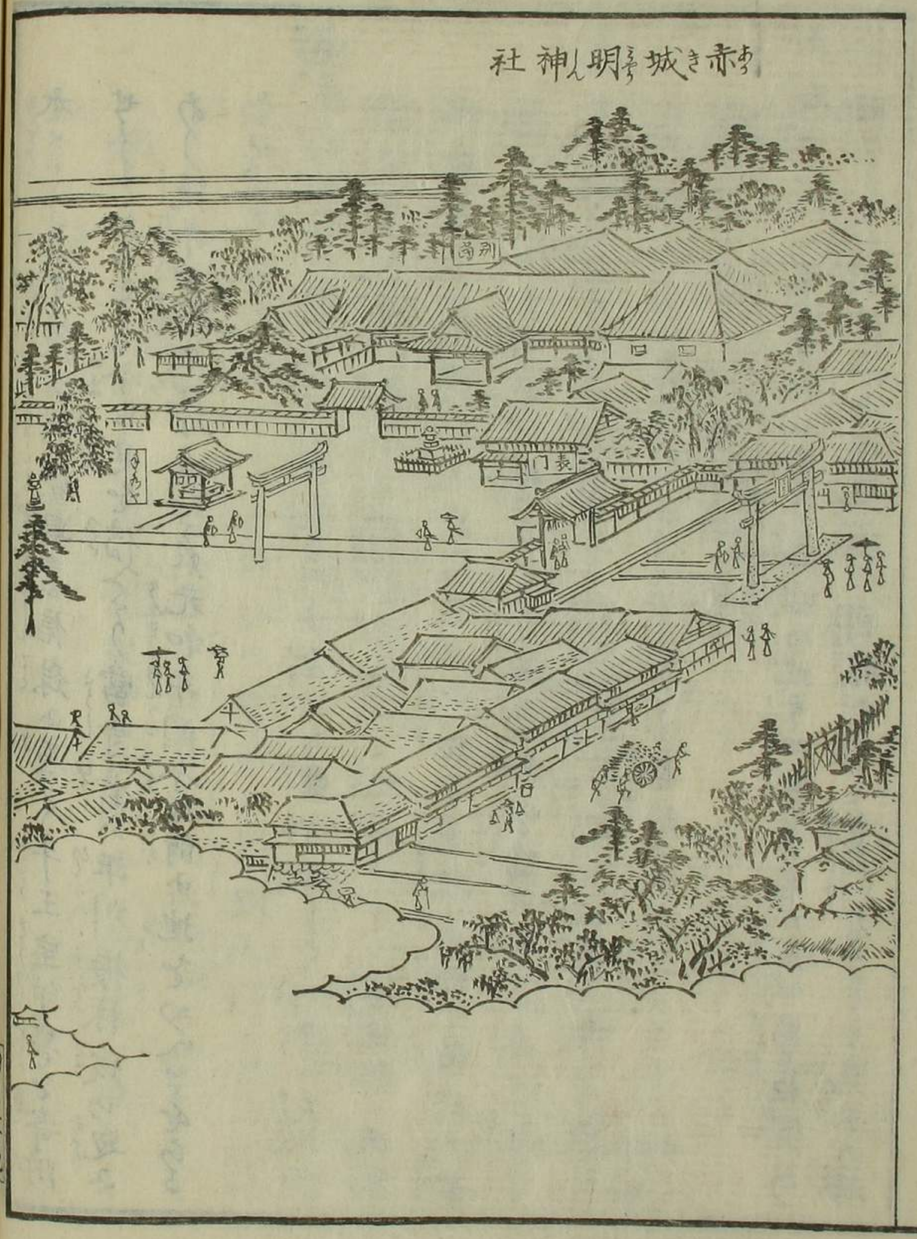
藥龍山正蔵院　同所南の方横寺町よあり天台宗東叡山ゆ属せ
閑山ハ圓観律師ゆ尊ハ茅師仏の靈像ハ傳教大師一刀三礼の
作なり　世ゆ草刈茅師如来と称せり　相伝ゆ當寺往昔梅林坂御城内の地よあゝ
し頃一人の草刈来るく閑山圓観師ゆ此藥師の靈像を授与し
去るゆ長禄年間太田左金吾入道道灌當寺を創建してこれを

本尊とす　後上杉朝興ゆ信殊ゆ厚く牛王宝印等を寄附
せゝもたりとく今も是を伝へゝり　當寺昔ハ平川梅林坂の辺ゆ
あり　後年田安の地よゝれ元和年間今の所ゆ地をかへゝもらる
とゝゆふ

赤城明神社　同所北の裏通ゆあり牛込の鎮守ゆゝく別當ハ天台宗
東覚寺と号ゆ祭神上野國赤城山と同神ゆゝく本地佛ハ將軍
地蔵尊と云往古大胡氏深く此御神を崇敬し始ハ領地ゆ勸
請しく近戸明神と称す　子孫重泰當國ゆ移して牛込ゆ住せり
又大胡を改めく牛込を氏とゝ　其居住の地ハ牛込庄の辺あり先ゆ我も
此御神をこゝゆふ勸請なゝまるとゝも祭礼ハ九月十九日なり　當社始く
勸請の地ハ目白の下関口領の田の中ゆあり
今も田中に立ありく是と赤城の森とゝ

御殿山　同く東の方中山家の藩邸の地ゆ旧址なりとゝ或云萬昌院乃
辺なりとゝも相伝ゆ太田道灌の別館ありし舊跡なりとゝ寛永の頃


拜殿
本社
茶や
ちゃうか


赤城明神社
表門

大將軍家浄故鷹の時の浄儲として假に建置あり浄殿の地なりとのへり

蔭涼山濟松寺　同所榎町にあり京師妙心寺派の禪嵓にして昔は妙心寺より輪番本る釋迦如來を安置し開山は心印正傳禪師開基は素心尼なり此尼は牧野兵部少輔政玄の女にして春日局と共に大將軍家昵近の侍女なるも當寺は浄佛殿あるも芳心院浄別當を務む此寺は芳心尼の開創なり浄佛殿の前の池を鳳凰池と號く靈亀水なり芳心院の地はあり〳〵寛永の頃は浄茶の水に掬さしめあるとあり開山塔は養春院是を預る也〳〵僧坊六宇經堂鐘樓庫裡浴室等巍々然として軒を連ね輪奐〳〵

三佛堂の額は天下蔭涼とあり隨自意院宮一品准后公啟法親王の真筆なり

豐後小侍從大友義延舊館之地　同寺院を指て旧跡と也相傳へ

文祿二年大友義延朝鮮征伐の役に補せられしも武備怠あるを以て豐臣大閤罪して當國へ迯し此地に蟄居せしむ此地即旧跡なりとのへり

南向茶話云大友左兵衛督義統文祿年間朝鮮征伐の役に怠り領國を没収せらる後常陸國に於て卒す嫡子宗五郎義延此地に住む義延は往四位に叙し侍從に任ぜらる豐後小侍從と称す慶長五年関原浄一戰の後常州筑波郡に於て三千五百石の地を賜る早世も又江戸鹿子に載る草紙に義乗と記せり義延の事を謬る其後大橋立慶此地に居住せり望海無談に竜慶高田大友のやしきを寛永十七年の事實を記せり次に浄祐筆大橋高田天滿宮の詳なり竜慶高田大友のやしきを賜る地に天滿宮の祠あり〳〵

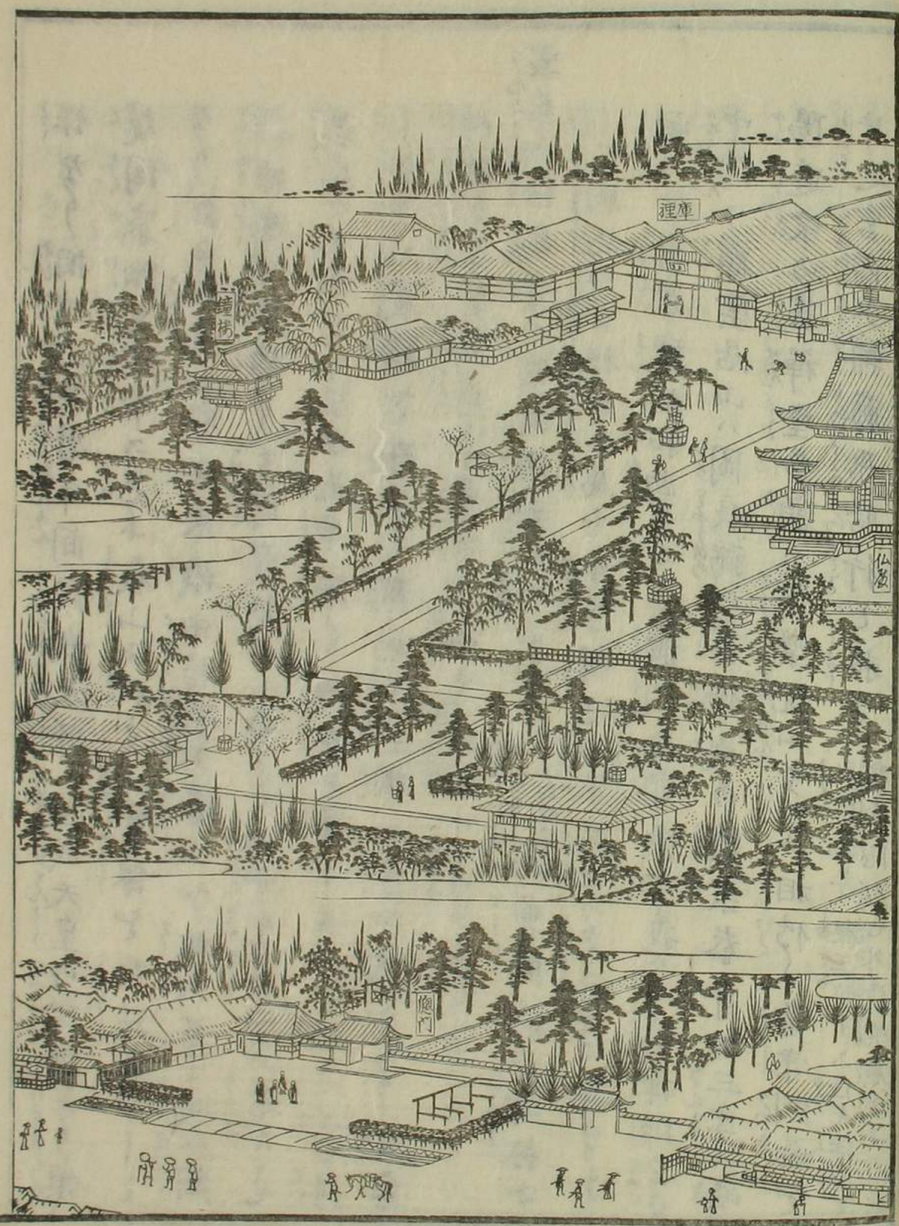
大友松　同所天神町の東に續き〳〵る浄持筒組高野氏の地にあると云

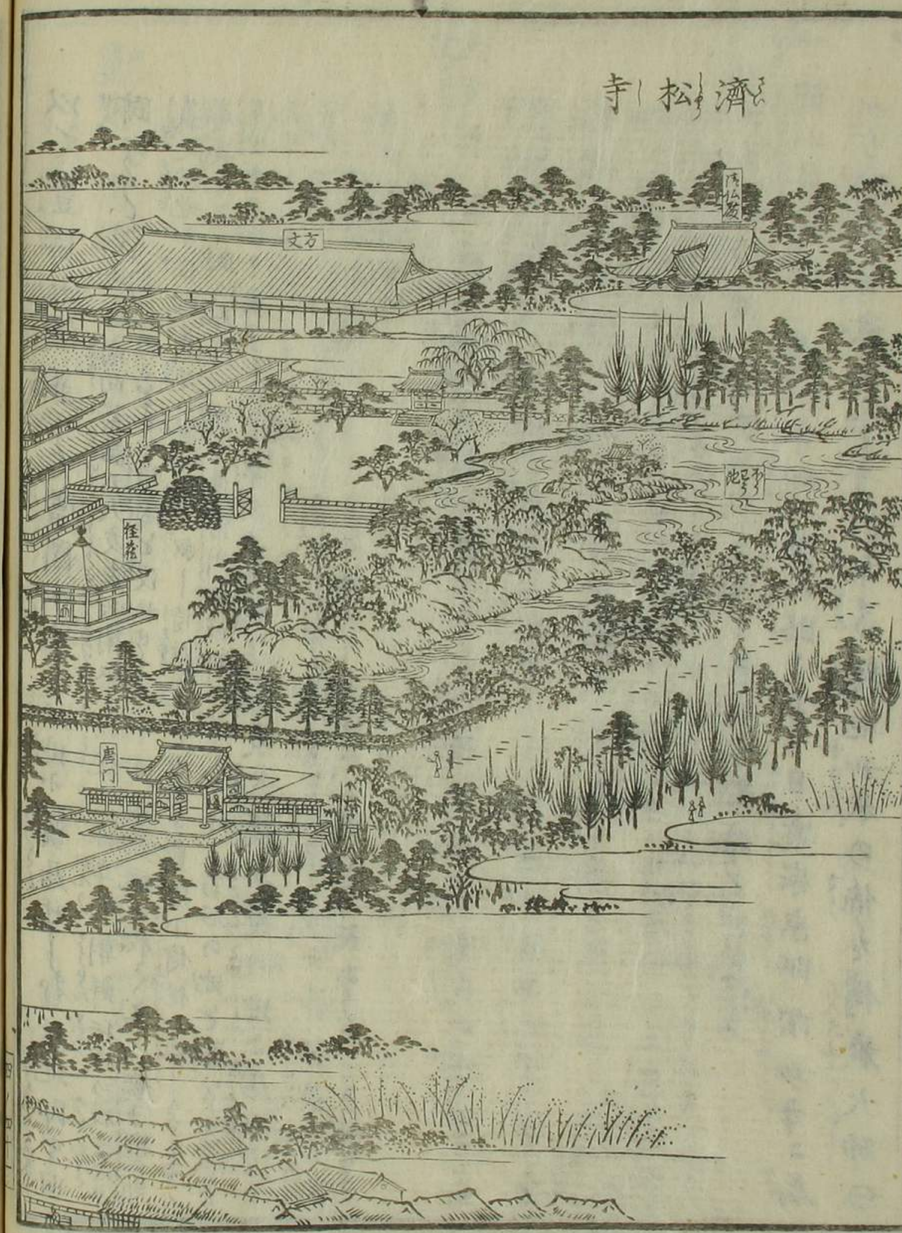
昔大友義延の別莊の庭前の松あり〳〵後田祿に亡ひ〳〵を其地の主旧跡を失むるを歎き若木を栽られ〳〵

大友義延の家臣吉良傳右衛門某の家の傳説に大友宗五郎義延武州へ迯る頃後ひ来る家の營作せし教寺屋の前の松なり〳〵蔭涼山濟松寺の名も此松より號けられ〳〵

大友稲荷祠　同所にあり是も義延の勸請といひ伝へ

一樹山宗柏寺　濟松寺向の横小路にあり日蓮宗京師頂妙寺に屬せり開山は日意上人と号し本る釋迦如來の像を傳教大師の


庫裡
仏殿


濟松寺
方丈
仏殿
怪石
山門

作なり相伝ふ延暦年間傳教大師　桓武天皇の詔をなり鎮
護國家除災延命のゐる叡山ふ於く此靈像を彫造ありしと
なり然ふ元亀二年辛未織田信長公叡山を放火せし時仏閣
僧坊悉く灰燼す　時護持の人ありく此本尊をハ取出して
差なるをしを　後水尾帝深く佛乗ふ帰しまつりを以く是を拜
しまひ又宸翰を賜ひく釋迦牟尼佛の号を添まつり日意
師此本尊を感得し当寺を開く安置しまるとのへり

雲居山宗泰寺　同所辨財天町ゆあり　此地を土俗曹洞汎の禅林ふ
して駒込の吉祥寺ふ属を本尊釋迦如来脇士ハ文殊普賢なり
開山を看栄禀阿和尚と号く徳門の額弟一義ハ心越禅師の筆
中門の額雲居山ハ岡良弼の書佛殿の額宗泰寺の三字ハ崎
陽道栄の書禪堂の額ハ黄檗悦山とのへ相伝ふ当寺開基を
牛込宮内少輔藤原勝行と称す

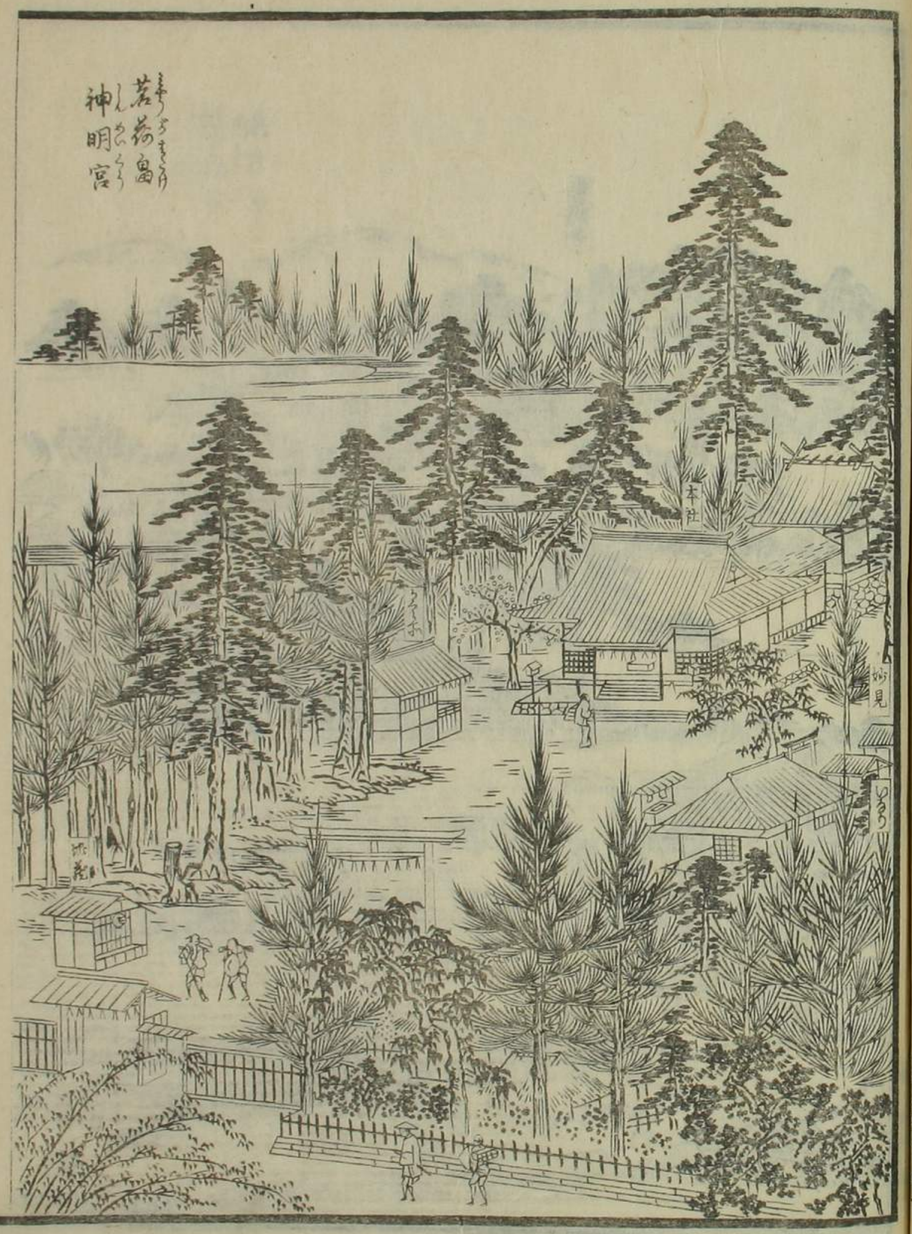
当寺ふ墳墓あり　鎮守府将軍武蔵守秀郷の後裔大胡重俊　上野國大胡城を築き
かこふ住す則大胡太郎と称せり重行ふ逮ひく此牛込ふ移り住す　土人牛込殿と
よへり或人云家系ふ大胡太郎成行十代の孫同彦次郎重治上州大胡より武
州牛込ふ移り住　十代の孫重行の嫡男なり　重行ハ宮内少輔とのへ法名ハ
雲居院殿実翁宗参大庵主
と号ひ天文十二年癸卯北条氏康の麾下ふ属し武州牛込及今井　赤坂の今井狩
又当寺ふ墓あり　或人云其家系　其余下徳の堀切千葉等の地を領し牛
櫻田比々谷　日尾谷ふ作ると　或人云牛込氏系譜ふハ牛
込ふ住す　永禄北条家の分限帳ふ江戸牛込比々谷本郷葛西の堀切等の地大胡氏
領ると有れとも今井千葉の両の名を載ず　或人云牛込氏系譜ふハ牛
込其余高田落合関口小日向冨塚小石川の金杉市谷田安櫻田　天文十三年甲辰
朝草同金杉等の地名を所領の中ふ注しかゝとのへり　桜ふ朝草ハ歳草と云ふ
父重行の菩提を吊ふんとる当寺を創建し寺田を寄附し父重行
の法号を採く寺の号ふ呼へと同二十四年乙卯従五位下ふ任す
其時氏康ふ告く大胡を改め其采邑の名の牛込をもて氏とせ　天正十八
年北条氏滅亡の後勝行の子勝重天正十九年辛卯始て　大神君ふ謁し奉り後
幕下とのへり　或人云勝行の子ハ後重とのへ慶長十五年始く三代大将軍を拜し奉
而説いろもと是なり
大胡重行同勝行父子之墓　境内卯塔の中ふあり一基の石碑ふ父子の法号
あるひ俗を刻せ或人云大高季明の書ありと

高田本松寺
願満祖師堂

否やとまつ榮の梅 開山看采和尚殖られしとふ

三明山千手院 同所七軒寺町ゆあり 真言宗開山ハ舜倚法印と号せ本尊千手観音の像ハ洟長八寸九分脇士多門持國の二天せゆ赤栴檀ゆーく毘首羯磨天の作なりと〻も相傳ふ往古越後國安巨山ゆあるもーら天正年間豊大閤秀吉公柴田勝家と戦ふゆ及んて蒲生氏郷の臣殿池玄蕃と〻ふ人是を感得せ既ゆて元和年間蒲生家敗壊の後殿池ハ下總國佐倉の城主堀田家ゆ仕ふ故ありく冨永氏某伯来ーー後當寺ゆ安置ーーとい〻も

正定山幸國寺 同所原町ゆあり日蓮宗小湊の誕生寺ゆ属せ開山せ日観上人と号ゆ當寺ゆ安置の日蓮大士の像ハ世ゆ布引の御影と称せり傳云文永七年庚午宗祖大士鎌倉ゆ在ーー項房總の國郡数月疫癘流行せりこゆ於く人民大士ゆ救を求む乃大士



佛工をして自の像を造らしめ白布に経題を書して手に掛めん嘱して曰く則是日蓮なりと云く依て此霊像を平地に移すに疫疾の患へ頓に退きぬ故に此霊像を小湊の誕生寺に安置したり又宗門流布の為寛永七年庚午二月十六日當寺に移したまふ此霊像に寒暖に衣服を改むるの池上に同じきとのへ

神明宮　早稲田大田圃にあり　祭神天照春日八幡三座なり同所赤城明神の別當等覚寺より兼帯せ祭礼は九月十六日なり鎮座の年歴詳ならずといへとも

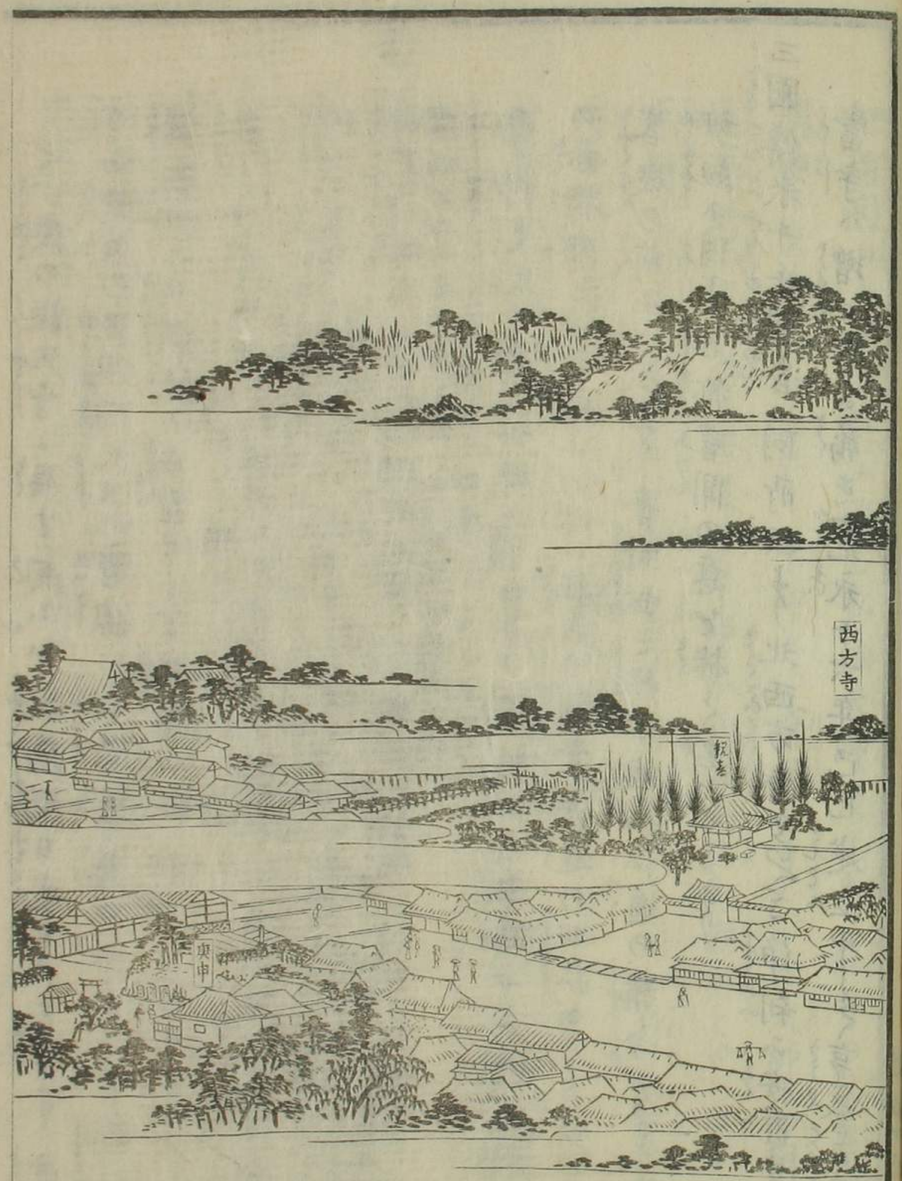
（故あり其衣服は年々阿部氏某調進すなり）

（天和二年同所横町より移す今大西番組林氏某の宅地は元田地なりしと）

赤城明神舊地　同所田畔小川に傍てあり大胡氏初て赤城明神を勧請せし地なり故に祭礼の日は神輿を此地に渡しまふらん

本妙山感通寺　高田穴八幡の馬場下南の坂上にあり日蓮宗に

誓願寺
西方寺



して小湊の誕生寺に屬す開山を寂陽院日建上人と号す當
寺に安置の毘沙門天王の靈像ハ行基菩薩の作にして越後
國高田の日朝寺に安置せしを越後必將忠輝の御母君こよ
ゆ迎しものなり　日蓮上人傳に文永十一年鎌倉より赦免あり佐渡國より越後高田
に向ひ給ふ此地ハ往古の鎌倉海道の旧跡なりと云へり
客殿の前に一松あり普聞松と称せ法花弘通の精舍なりと
妙經に因て名称普聞の意を採て名づくとあり
三國傳来千手觀音　同所坂より北西方寺と云へる淨刹に安置せり
當寺ハ増上寺に屬せ寛永十六年己巳建立にして亨誉貞義
和尚開山にして相傳に往古弘法大師唐土青龍寺の惠果阿
闍梨より授与せられし中印土の靈佛なりと云へり大師帰朝の
後高野山の大塔に安置ありしを彼山麓に住る流水といへる沙門
感得して武州浅草に移し奉りしを故あり開山貞義和尚當
寺に迎し奉るとなり故に三國傳来の称ありと云へり
自樂居士墓　境内卵塔の地にあり備前國の産にして齢を保つ既に百十
四歳なり常に壯年の人のごとく見ゆ文字を書ものを得ざり
人に与へしとなり宝暦三年癸酉十二月三日に没せ
亀鶴山誓願寺　同北に隣る易行院と号し浄土宗にして靈巖寺
に屬せ本尊五智如来の像ハ各長八尺　開山水食本誉上人秋風誓願
和尚の作なり常念佛の道場にして清淨無塵の佛域なり當
寺昔ハ少しの庵室にして前に松樹四株を植て方位を定め
方松庵といひしとそ今四五十歩南の方道を隔て向の側に
庚申堂あり是則昔の方松庵の地なり

稲荷祠　境内ニあり用山誓願和尚ハ世ニ仏像を作ること常ニ吹革と吹革祭をなせしとあり今も此所ニ境内ニ稲荷を勧請し十一月八日ゆつく槇くの細工とあせり其余風ハ年々ものあり　垂枝櫻　本堂の前ニあり菊岡沾涼ゆるゝ櫻と名付しもの是なり附て云當寺境内ニ横たゝれる小溝の流まとりつく豊島郡と荏原郡との堺とも當寺鐘の銘ニあるを挙くるなり

金川　同所穴八幡の前を早稲田の方へ流る小川を云とあり今八古川と唱へる水源ハ戸山御庭中より發せるニあり文明年間太田道灌遊猟の時急雨ニ逢しハ此地やゝく昔ハ川の幅も廣くしとあり其頃ハ加奈川又加能川とも称るとあり或ハ蟹川ニ作る

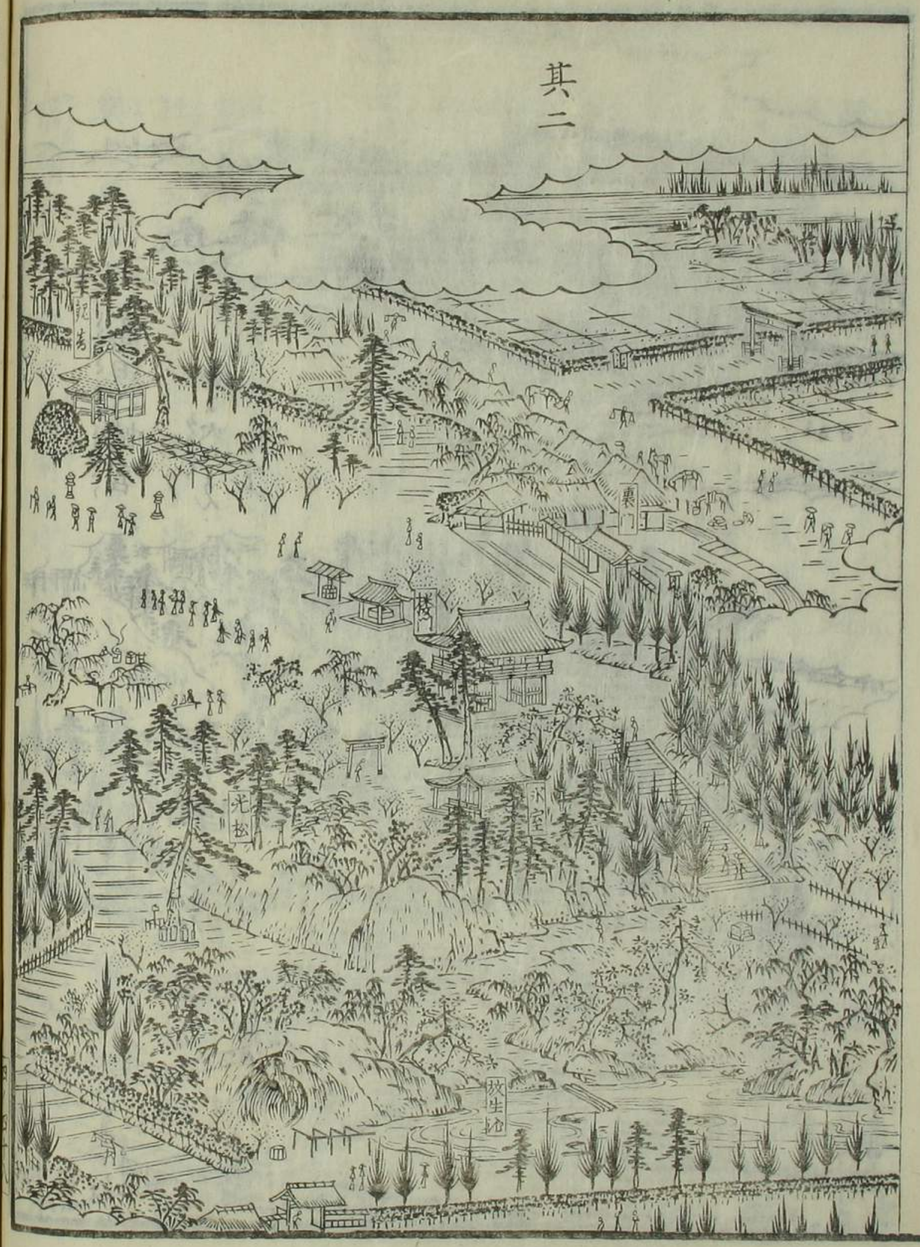
高田八幡宮　牛込の總鎮守やゝく高田ニあり世ニ穴八幡此地を戸塚と云ふ

と云別當ハ真言宗やゝく光松山放生會寺と号ス旧名ハ威盛院中之坊と唱へしと

祭礼ハ八月十五日ゆく放生會あり旅所ハ牛込神楽坂の中腹ニあり

社記云寛永十三年丙子清弓隊の長松平新五左衛尉源直次ニ與力の輩射術練習の為此地ニ的山を築立らる八幡宮ハ源家の宗廟やゝくもろ弓箭の守護神なれとて此地ニ勧請せんるを

本社
拜殿
竹宮
若宮
本地堂
釋迦堂
吉提樹
鐘楼
別當


其二
裏門
表門
光松
不老
放生池

謀る此山ハ素より古松二株あり至頃山鳩来つく日こゝハ此松の枝上ハ遊ふを以て靈瑞とし〳〵假ハ八幡大神の小祠を營〳〵〳〵件の松樹を神木とす（南向亭云く此地ハ旧早稲田邑の地中島とのへ此地ハ七ツ林ありし人の持伯へ〳〵此地昔ハ阿弥陀山と呼来りしとゝ有りされと其山林ありしとゝ）

所以を知者なるとゝハ同十八年辛巳の夏中野宝仙寺秀雄法印の會下ハ威盛院良昌とのつる沙門あり周防國の産ゆ〳〵く山口八幡の氏人なり（毛利家の侍榎本氏其ハ仕へ〳〵榎本氏ハ後十九歳の年道世し高野山ハ登り宝性院の法印春山の弟子紀の行法をとけ〳〵三十一歳の時より諸國依く此沙門を迎へ〳〵修行の志を発し間さゝの奇特をあ〳〵ハせりとゝ）

社僧〳〵〳〵故ハ同年の秋八月三日草庵を結ん〳〵と〳〵く山の腰を切開時ハ八幡の靈崖を得ゝとの崖中石上ハ金銅の阿弥陀の靈像一軀たせ給へり（時長三寸）八幡宮の本地ハ〳〵ろ〳〵ハ山の号に相應せるを以て奇ありとも（穴八幡の号こゝハ起り其又此日）将軍家（旧址今御坂の傍ハ有）

所令嗣（嚴有公）所誕生ありしハ衆益ゆ靈威を為る（江戸名所記ハ云ク同年八月九日）

社頭の境ゆ一町四方ハ縄張〳〵地を開き本社ゆハ神木の松の本ハ迄八重垣を結まゝ〳〵る時加州大守数百の人歩を贈りて地を築固ゆ〳〵む依く日あ〳〵成就同十四日宮の式を執り行す松平新五左衛尉ゆ〳〵ろ〳〵の人〳〵を引供〳〵く的山の辺ハ幕を張式正の小的を建る神的ハ射法ハ礼ハとて小池の河某ゆ子十二歳ゆ〳〵〳〵是を勤むと云云

後元禄年間今の如く宮居を造営あり〳〵く結構備り南向亭茶話ハ嚴有公発ハ當社を造営せ〳〵る裏ハ内藤豊前守曽賢堂ハ松平左近将監手水垣ハ増山兵部少輔様昌院殿ハ再興あり〳〵と云く又江府神社略記及ひ和漢三才図會等の書ハ元禄年中寄進すとあり

若宮八幡宮（本社の前左ハあり）

東照大権現（同所ハ並ハせあふ毎年四月十七日参拝の人多し）

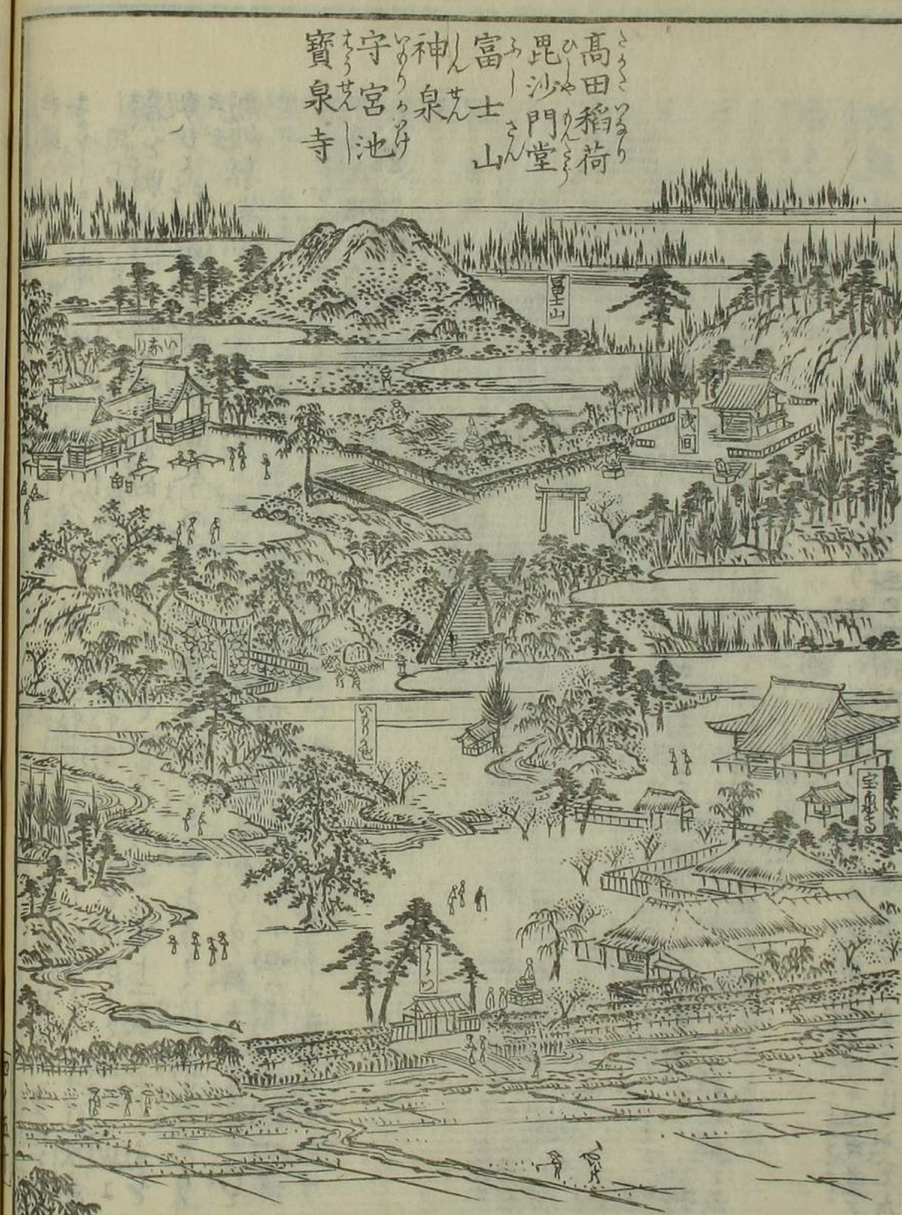
氷室明神祠（本社ハ指對す盛徳と元禄二年十二月二十二日牧村氏直良十六歳中〳〵疱瘡を患ふ同三年正月二日金斧の住人度氏是善靈夢の應あり〳〵く此神を祭る直良此神ハ祈願〳〵平愈せ同七年の頃始て〳〵鎮座せ〳〵る）

光松（別當寺と本社との間坂の支路あ〳〵ハ後世殖徳〳〵る若木あり南向亭云く此地昔ハ松樹繁茂せ〳〵山林中ハ一株の松あり暗夜ハ折とて端光を現せ故ハ樹を称し〳〵光り松と云）

放生池（石階の下山の腰〳〵り清泉〳〵〳〵石清水の岩ハ應〳〵の寺持〳〵〳〵〳〵実ハ）

出現所（坂の半腰絶壁ハ〳〵往古の靈崖の旧址なり近頃造せ地ハ出現堂と号け〳〵九品佛の中下品上生の阿弥陀如来の像を安置せ〳〵堂宇あり〳〵今尽く）

裏門
毘沙門
表門


高田稲荷
毘沙門堂
富士山
神泉
守宮池
寶泉寺
富士山

能舞臺址　本社の左の方にあり今廢して存せるのみ寛延三年庚午三月觀世太夫一代能を奥行せし跡なりとかや

抑當社の別當寺を光松山と號し神木の奇特ありしてあるも神と君との道直ゆゑに治る世代の濁りなく石清水の清き誓ひ家もそなはれる思ひなる殊更元祿の頃世再興ありしより和光の神德日くまに顯はれ昭然たり

高田稲荷明神社　同所八幡宮より右の方道路を隔てあり戸塚村の産神と称す故に戸塚稲荷とも唱へる本地佛聖觀世音は南都德一大師の作なり相傳ふ當社の權輿は最久遠なりしかも文亀元年辛酉上杉治部少輔入道朝良戸塚村の地を社領に附せられ南向亭靈夢に依て宮居を再興し當社に古き棟札を藏せり文に云く天文十九年二月二十九日牛込主膳時國再興別當宝泉坊秀宝大工与左衛門同左衛門五郎とあり按に牛込主膳時國の名いまく考へず上州大胡氏の後裔武州牛込に住し天文二十四年氏を牛込に改むるなり家系および牛込宗参寺の侍記より載せ考へれば大胡氏も天文十九年の頃ハいまく牛込氏に改めしなり時代を合せ考へれば時國ハ自ら別の人なり然れハ此ハ時國なるハ自ら別の人なり（他日詳正すべし）天文十五年壬午四月靈告ありしく榎の控より

靈泉涌出す眼疾を患ふる者此靈水を以て洗ふもてしく奇驗あり仍土俗當社をさしく水稲荷とも称せり毎年二月初午日奉射あるも祭祀ハ九月九日なるも社前榎の控より涌出ありとかや

神泉　同境内小高き丘の上にあり本尊毘沙門天王の靈像なり

毘沙門堂　同境内小高き丘の上にあり本尊毘沙門天王の靈像なり慈覚大師の作ゆゑに武蔵守藤原秀郷の念持佛なりといへり相傳ふ慈覚大師江州唐崎の濱に至るに川の笛を拾ひ得ると内に長一寸八分の多門天の靈像あるを大師随喜しく自是を念持佛とす仁壽年間田里下野國に下り佐野の大慈寺に入りあひ長二尺五寸の多門天像を彫刻あるく先の靈像を胎中に竜めまゐらせ大慈寺に安置ありしを天慶中武蔵守秀郷平將門を征伐の後此地より移しうとあり紫の一本と云ふ冊子に秀郷將門を退治せるの時深く毘沙門天を念じ毘沙門天現の上に現じ自ら模し彫むとあり寺傳に異かり拜殿に掲ぐる和の多聞天の額ハ長崎

道栄の筆なり其傍に朝日庵と云ありて眺望尤幽雅なり此地の時鳥ハ世に勝れて早く啼ゆゑに其名を得たり

旗立桜も同じ堂前石燈籠の側にありて今ハ若木なり 或人いふ秀郷此所にて旗を立るとも又ハ此地昔新田家陣営の旧址なる由云伝へて旗立桜曽掛の梅杯云もありて稲荷の社前池の辺にありしが枯て後植つぎぬるよし南向亭茶話によるに旗立桜ハ桜の一種に帆立桜とて草六瓣のうちの中に蘤一亍別に帆を立るが如く旗を立るに似たり是を帆立桜と呼へり土人謬傚せるものならん

舩繋松も同じ堂後山の中腹にありしが是も今ハ枯たり 昔大将軍家此地遊猟の頃此松の齢を問せらるゝ寺僧某凡千年に及へる由答へ奉りけれハ千年松と唱ふへき旨鈞命ありしとなり 舩繋松のことハ第五巻目日暮青雲寺の条下に詳なり

守宮池も同じ山下にあり水中蜥蜴多し 寛永の頃此池にて鈞命に依ていもりをとらる池とよふとぞ故に此名あり

禅英山寶泉寺 稲荷と毘沙門両社の別当寺なり天台宗東叡山に属せり開創の年歴未考へず本尊薬師如来の像ハ伝教大師の作なり 或人云花洛鮹薬師と同躰なりといへり 相伝ふ文亀元年辛酉上杉治部少輔朝良 或云朝興 霊夢を感じて後稲荷の宮居を再興し又当寺を創建して大檀那となる 禅英とハ朝良の法号なりとぞ 其後天文十九年庚戌牛込

主膳時國といへる人宮社寺院共に重修せしよし棟札に記せり 当寺に楠正成の兜と称するものあり裡に越前國豊原住人貞生作と彫付てあり其信否をしらず 常念佛堂ハ構の外にあり本尊阿弥陀佛の像ハ聖徳太子の作なりといへり 堂内に銅像の地蔵尊を安ず

高田冨士山 稲荷宮の後にあり巌石を畳むて其容を模擬す安永九年庚子に至り成就せしとなり此地に住める冨士山の大先達藤四郎といへる者これを企てたりしとぞ毎歳六月十五日より同十八日まて山を開きて参詣をゆるす山下に浅間宮を勧請してあり

宗良親王陣営舊址 寶泉寺の山林を指て其旧跡とす 後村上帝の正平七年壬辰新田家信濃宮宗良親王を供奉して武蔵野合戦ありし時の陣営の旧址なりといへり 宗良親王ハ後醍醐帝第三の皇子にて信濃の宮と申奉る

新葉集雑 あつまの方に久しく侍りてひたすらものゝふの道にのみたつさはりつゝ征東将軍の宣旨なと下されしも思ひの外なるやうにおぼえてよみ侍りし

おもひきや手にもふれさりし梓弓おきふし我か身なれむものとは　宗良親王

おなし頃武蔵國へ打越て小手指原といふ所におりゐて手わけなとし侍りし時いさみあるへきよしはそのもとにや申侍りしついてに思ひつけ侍りし

君かため世のため何かをしからむすてゝかひある命なりせハ　同

高田天満宮
此辺ハ藤花園
ハ時ハ花盛